

がん診療連携拠点病院等 院内がん登録

2007年10年生存率集計 報告書

国立がん研究センター がん対策情報センター
がん登録センター 院内がん登録分析室

令和3(2021)年4月
国立がん研究センター がん対策情報センター

がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2007 年 10 年生存率集計の公表について

国立がん研究センターでは、がん対策情報センター・がん登録センターを中心に、これまで全国がん登録及び院内がん登録の標準化や体制整備に努めて参りました。院内がん登録は、2007 年診断症例から全国のがん診療連携拠点病院のデータを収集し、院内がん登録全国集計として我が国のがん診療の実態を把握する資料となるよう、毎年、全国集計報告書を公表しています。院内がん登録情報をもととした生存率集計としては 5 年生存率、科学的根拠に基づく情報をより迅速に提供するために 5 年より早い段階での生存率として、3 年生存率を公表して参りました。

10 年生存率としては、これまで全国がんセンター協議会の加盟施設 32 施設を対象とした全がん協生存率調査結果が公表されています。今回、がん診療連携拠点病院等をはじめとする院内がん登録としては初めてとなる、2007 年診断症例の 10 年生存率を集計しました。全国 256 施設から 2007 年診断症例の 10 年予後付院内がん登録情報を提供していただき、生存状況把握割合が 90%以上であった 181 施設のデータを用いて集計しています。集計では、全がんに加え、胃がん、大腸がん、肝細胞がん、肝内胆管がん、肺小細胞がん、肺非小細胞がん、女性乳がんのがん種別の集計を行いました。

2007 年診断症例は、院内がん登録の開始初年度でありデータの精度や生存確認調査には一定の課題があり、全国のがん診療連携拠点病院等を代表する数値と捉えることはできません。しかしながら、本集計報告書をご活用いただけますと幸いです。

令和 3 年 4 月

国立研究開発法人国立がん研究センター 理事長

中釜 斉

生存率について

がん医療を評価する重要な一つの指標として、生存率がある。伝統的に、診断後あるいは治療後 5 年経過した時の生存率が治癒の目安とされており、がん(部位)によっては 10 年生存率が治癒の目安とされることもある。この報告書では、がん診療連携拠点病院 2007 年全国集計の結果を踏まえて、2007 年に診断された例の 10 年生存率を集計した。

信頼性の高い生存率を算定するためには、患者の生存確認を行うことが重要であるため、自施設への来院情報だけにたよらずに、患者の生存状況を把握する生存確認調査(いわゆる予後調査)が必須となる。この生存状況の把握が不十分な場合には真の値よりも高い生存率となることが知られている。また、生存率は生存状況把握割合以外にも生存率を算出した対象集団の基礎疾患の頻度や年齢分布などの偏りなどによっても大きな影響が出る。このように生存率の結果の解釈には様々な要因が影響することに留意する必要がある。

1) 生存状況把握割合の意味

生存率の算出において、先行研究における試算では、生存状況把握割合によって院内のデータのみを使って計算した場合、5 年相対生存率が真の値よりも 10~15% 高く推定されてしまうことがあるとの報告がある。そのため、我が国で先行して施設別生存率の公表をしてきた全国がんセンター協議会の集計方法¹⁾を踏まえて、生存状況把握割合が 90%以上であることを基準として、この基準を全がんにおいて達成した施設のデータのみを集計の対象とした。この生存状況把握割合は国際的には 95%以上が望ましいとされており、わが国の院内がん登録でもより高い把握割合をめざすべきであると考えられる。

2) 生存率の種類

生存率には、その算出の仕方によって大きく「実測生存率」、「疾病特異的生存率」、「相対生存率」、「ネット・サバイバル(Net Survival)」に分けられる。

「実測生存率」は、死因に関係なく、全ての死亡を計算に含めた生存率で、診断例に対する～年後の生存患者の割合で示される。計算方法は複数存在するが、Kaplan-Meier 法が頻用され、医療機関の公表する生存率は Kaplan-Meier 法による実測生存率であることが多い。本報告においても、実測生存率については Kaplan-Meier 法を用いて計算している。

一方で、がんによる生存への影響を把握したいときには、「疾病特異的生存率」、「相対生存率」、「ネット・サ

バイバル(Net Survival)」が用いられる。「疾病特異的生存率」は、実測生存率で計算される対象にはがん以外の死因による死亡も死亡の中に含まれるため、がん以外の死因による死亡を、「打ち切り」として計算している。この疾病特異的生存率を正確に推定するためには、がんが死因でないかどうかを判定できなければならない、そのために原死因を用いて判定するか、それ以外の死因も含めて判定するかで結果が変わってくる。現在の日本の現状において、この死因の把握はかなり困難である。

これに対し、「相対生存率」、「ネット・サバイバル(Net Survival)」は、実測生存率を対象と同じ性・年齢・診断年(歴年)の一般の日本人集団で「がんではなかった場合の生存率」という考えによる期待生存率を算出し、それで、実際の生存率を割って算出する方法である。疾患特異的生存率のように個々の死因を把握する必要がないため、国際的によく用いられている。

この期待生存率の算出方法の違いから、Ederer I 法、Ederer II 法、Hakulinen 法などがこれまでに開発されてきており、それぞれ特徴があるが、相対生存率に変わる方法として、「ネット・サバイバル(Net Survival)」が目ざされている。本集計においては、従来からわが国で推奨されてきた Ederer II 法を用いた。

3) 既存の生存率集計

現在までに、原則として全国を対象とし、かつ臓器別ではなく、全がんを対象として公表されてきたがんの 5 年生存率には、地域がん登録によるもの、全国がんセンター協議会によるものがあり、これらは全て相対生存率で算出されている。

本集計は、人口ベースのデータに近い、臓器別の全国データや、都道府県別データであるため、実測生存率とともに、相対生存率を算出した。

4) 生存率をどう解釈するか

本集計による生存率は、既存の地域がん登録や全国がんセンター協議会の集計結果に比べても、より広汎な集計データといえるが、それでも拠点病院と一部の都道府県推薦病院に限ってのデータであることに留意する必要がある。なお、本報告書では、生存率に影響を与えることが想定される情報で、かつ院内がん登録としてデータ収集されている情報として、①性、②年齢、③病期(がんの進行状況)、④観血的治療の有無(手術されたか、されなかったか)などを参考資料として併記して示している。

1) 全がん協調調査などでは、消息判明率と呼ばれてきたが、本報告書ではこの呼び方で表記する。

参考資料

- がん登録実務者のためのマニュアル 生存率解析 味木和喜子
2001 年 9 月、大阪府立成人病センター調査部
- がん専門施設における生存率計測の標準化 木下洋子他、
癌の臨床 第 46 巻第 10 号、2000 年 9 月、篠原出版新社

目 次

がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2007 年 10 年生存率集計の公表について.....	2
生存率について.....	3
I 2007 年 10 年生存率集計 調査方法.....	5
1. 収集の対象と方法.....	5
(1) 収集の対象.....	5
(2) 収集方法.....	5
(3) 収集項目と定義.....	5
2. 集計の対象と集計方法.....	6
(1) 集計の対象.....	6
(2) 集計の手順.....	6
(2) 集計項目の定義.....	7
(3) 集計方法.....	8
(4) 公表の対象.....	8
II 2007 年 10 年生存率集計 結果概要.....	11
1. 調査参加施設と登録数.....	11
2. 集計対象.....	11
3. 相対生存率集計対象者.....	11
III 2007 年 10 年生存率集計 結果詳細(全体) :悪性新生物<腫瘍>.....	20
1. 全がん.....	20
2. 胃癌.....	23
3. 大腸癌.....	25
4. 肝細胞癌と肝内胆管癌.....	31
5. 小細胞肺癌と非小細胞肺癌.....	35
6. 女性乳癌.....	39
付表(2007 年 10 年生存率集計).....	41
1. 集計対象施設一覧.....	

I 2007 年 10 年生存率集計 調査方法

1. 収集の対象と方法

(1) 収集の対象

本集計では、2019 年 6 月 26 日時点のがん診療連携拠点病院等 442 施設と 2014 年診断例、2012 年診断例または 2007 年診断例(2012 年 5 年、2007 年 5 年予後情報付収集と同時収集のため)について院内がん登録全国集計(0 年集計)にデータ提出した都道府県推薦病院 300 施設に調査を依頼した。データ収集に当たっては、院内がん登録 2007 年診断例の通年データを持ち、死亡日、最終生存確認日、生存期間等の生存状況情報を含めたデータ提出が可能と考えられる上記の調査依頼施設に、「予後情報付集計」の名称で、2007 年 10 年予後情報付登録情報の提供を依頼した。調査対象例は、2007 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までの 1 年間に、自施設で診断または他施設で既に診断されて自施設に初診した、全悪性新生物(がん)及び頭蓋内の良性及び良悪性不詳の腫瘍の登録患者*である。これら対象例の 10 年予後情報付の登録情報(以下「予後情報付腫瘍データ」という。)の提供を各施設に依頼した。なお、各施設における登録対象患者は、下記の通りである。

* 各施設における登録患者について

各施設における登録対象は、登録を実施する自施設での新規の診断患者または他施設で診断された初診患者であり、初発例、再発例を含む。また、治療を行わない経過観察例も含まれる。セカンドオピニオンのみを目的とした初診に関しては登録対象とするかどうかは各施設の判断に任されている。1 腫瘍 1 登録の原則に基づき、同一患者に別のがん種と判断されるがんが同時または時間をあけて(異時性に)生じた場合には、多重がんとして登録される。なお、多重がんの判断は各施設に任されている。登録済みの同じがんについて当該施設で治療中に再発した患者については登録対象ではないが、同じ患者が同じがんで複数の病院を受診した場合は、異なる施設において同じ患者の同じがんが登録されている可能性がある。(本全国集計では提供されたデータは匿名化後のデータであるため、重複の整理は行わない。)

(2) 収集方法

2019 年 5 月 22 日に、対象施設に、「院内がん登録予後情報付集計 手順書」を送付し、手順書に従って作成されたデータの提供を依頼した。データは、エラーチェックのための品質管理ツールを用いインターネット(ネットワーク型)を通しての提出を依頼した。データ収集期間は、2019 年 6 月 3 日から 6 月 26 日までとした。

提出においては、「がん診療連携拠点病院院内がん登録標準登録様式登録項目とその定義 2006 年度版修正版」において定義された標準項目(以下「標準項目」と略す。)を満たす腫瘍データを収集した。項目の品質管理(定義通りの項目・区分で登録されているか、関連する項目間の登録内容に矛盾はないか等)については、

ネットワーク型ではデータの收受の段階で品質管理を実施し、論理矛盾がない状態でのデータ提供への協力を依頼した。なお、健総発第 0907001 号「がん診療連携拠点病院で実施する院内がん登録における必須項目の標準登録様式に係る改正等」において定義された必須項目のみでのデータ提供についてはデータ精度管理上の問題から集計対象としなかった。

(3) 収集項目と定義

収集項目は、前述の診断から 10 年後の生存状況の情報を含む標準項目である。また、予後情報付腫瘍データの提出にあたり、下記の計算式に従って、追跡期間(日数)を計算し入力するよう依頼した。

* 追跡期間(日数)の計算方法

追跡期間(日数)とは、起算日から生存最終確認日もしくは死亡日までの日数とする。起算日は、後述する集計用診断日決定のルールに従って決定する。追跡終了日とは、予後調査結果が死亡であり死亡日があれば死亡日、生存の場合は生存最終確認日とする。

$$\text{追跡期間 (日)} = \text{追跡終了日} - \text{起算日} + 1$$

本集計に関連する項目について以下に記述する。その他の標準項目の定義は、2007 年全国集計報告書を参照いただきたい。

i. 診断区分

診断区分は、わが国の地域がん登録との整合性を図るために用いられている分類で、「1:初発(治療開始前)」、「2:治療開始後」に分けられる。この項目は当該腫瘍について自施設に受診する前に他施設において既に治療が開始されていたか否かを区別するもので、この項目が「1:初発(治療開始前)」であったケースでは、自施設で行われた治療は初回治療とみなす。本来であれば、一連の治療方針の下で施設を問わずに初回治療とされるべきであるが、わが国の現状では、施設が異なると、一連の治療であるかないかが判明しないことが多く、そのため、他施設での治療の情報は、初回治療であっても「初回治療なし」とするルールを定めている。

ii. 症例区分

症例区分は生存率の算定等で対象となる患者範囲を決定する重要な区分である。院内がん登録の機能の一つには、各施設の対がん医療活動の評価のための基礎資料を提供することにある。他施設と比較し自施設のがん診療実態を把握するためには、がん対象例を正しく識別する必要がある。この項目では、初回診断(登録施設での診断の有無)と初回治療(登録施設における初回治療の有無)の組み合わせにより患者を分類するための区分を登録している。本集計では、原則として「症例区分 2:診断ならびに初回治療に関する決定・施

行がなされた症例」及び「症例区分 3:他施設で診断確定され、自施設で初回治療方針に関する決定・施行が行われた症例」を分析対象とする。また、施設によっては前述の診断区分のみを入力している施設もあり、本集計では診断区分の組み合わせから症例区分を算出する対応表を用いて集計を行った。

iii. 臨床病期

治療前ステージ

UICC (Union for International Cancer Control) の定める病期の分類方法に基づき、何らかの治療が行われる以前につけられたステージを指す。わが国の一般的な臨床現場で使用される癌取扱規約に基づくステージとは若干異なる部分がある。胃、乳房、肝臓、大腸、肺についてのみ、標準項目とされているが、他のがんについては任意の登録となっている。肝臓については、取扱い規約のステージも標準項目として登録することになっている。

前医で治療がなされており治療前のステージが不明の場合などは「不明」に分類されるか、空白のままに登録される。わが国の診療情報に関わる施設間の情報交換に関する懸念からこのような方針をとっている。

術後病理学的ステージ

手術が行われた患者に対して、術後に検体が提出され病理学的に算出されたステージを登録する。手術が行われなかった場合には空欄で、術前に化学療法や放射線療法、免疫・内分泌療法などが行われた場合には、手術前の治療の影響が予想されるため、術後病理学的ステージは適応外として登録される。定義上は、原発巣に対する切除術が行われ、断片が陰性であるような治癒的な切除が行われた場合に本ステージが評価できるとされている。術後病理学的ステージは、腫瘍やリンパ節を顕微鏡的に観察して得られるステージであることから、治療前ステージと比較して、治療開始時点でのがんの状態をより正確に表しているといえる。

なお、2007年登録対象はUICC TNM 第6版準拠で登録されている。

iv. 治療の有無

院内がん登録において登録される治療は、登録対象となったがんに対する初回治療である。初回治療とは治療開始時点で計画された一連の治療のことであり、症状・治療の進行に従って後に追加された治療などは含まれない。当初経過観察が計画されていたが、病状が悪化したために治療が行われた場合なども「初回治療なし」となる。また、症状緩和的な目的で行われた手術や放射線治療は、部分的に腫瘍に対する治療であるといえることから登録対象に対する治療の一環に考えるが、腫瘍に影響のない、鎮痛剤や制吐剤などの治療は、「治療あり」としない。

現時点の院内がん登録では、「i 診断区分」で既に述べたとおり、登録施設で行われた治療のみを「初回治療あり」としている。

① 手術・体腔鏡的治療

手術とは一般に外科的治療を指し、体腔鏡とは麻酔下に行われる腹腔鏡、胸腔鏡などの手術を指す。これらには、消化管や気管支内視鏡による治療を含めない。

② 内視鏡治療

上記で除外された、消化管、気管支内視鏡などによる治療を指す。

③ 放射線治療

原発巣に対する放射線治療だけではなく転移巣に対する放射線治療も含まれる。小線源療法も放射線治療として登録される。

④ 化学療法、免疫療法・BRM、内分泌療法

症状緩和のための薬物療法(鎮痛剤、制吐剤)などは含まない。また、通常の静注・経口化学療法だけではなく、肝動脈化学塞栓療法(TACE)に含まれる化学療法や動注療法も化学療法に分類される。内分泌療法には前立腺癌における除睾術等も含まれる。

⑤外科的・体腔鏡的・内視鏡的治療の結果

当該のがんに対する外科・体腔鏡的・内視鏡的治療の根治度を登録する。ここでは、初回治療として行った総合的な結果を記載する。つまり、最初内視鏡的な治療を行ったが、その後外科的な追加切除が行われた場合は、外科的切除の根治度を登録する。

2. 集計の対象と集計方法

(1) 集計の対象

生存率集計における集計対象は、2007年に診断された例で次のiからiiiを満たす例を集計対象とした。

i. 自施設診断・自施設治療と他施設診断・自施設治療例

「症例区分 2:診断ならびに初回治療に関する決定・施行がなされた症例」及び「症例区分 3:他施設で診断確定され、自施設で初回治療方針に関する決定・施行が行われた症例」を集計対象とした。

ii. 悪性新生物<腫瘍>(一部良性の脳腫瘍)

本集計では、原則として新生物<腫瘍>の性状コード3の「悪性、原発部位(悪性新生物<腫瘍>)」の例を集計対象とした。但し、脳・中枢神経系に発生した腫瘍性疾患については、良性、良性又は悪性の別不詳の例を含めて集計対象とした。

iii. 年齢

診断時の年齢が0から99歳までの例を集計対象とした。

(2) 集計の手順

①集計対象例の選定

提出されたデータから上記のiからiiiに該当する例を抽出した。

i 自施設診断・自施設治療と他施設診断・自施設治療例

集計対象施設から提供されたデータを、表1-1 集計用診断日の決定のルール、及び表1-2 集計用症例区分の決定のルールに基づいて、「項目:集計用診断日」、

「項目：集計用症例区分」を作成した。その後、集計用症例区分が2, 3であった例を集計対象とした。

ii 悪性新生物<腫瘍> (一部良性の脳腫瘍)

原則として、「項目：330 組織診断名コード」の新生物<腫瘍>の性状を表す第5桁コードが「3:悪性、原発部位」であった例を集計対象とした。但し、一部の脳・中枢神経系に発生した腫瘍性疾患、ICD-O-3の局在コードが「C70.0, C70.9, C71.0, C71.1, C71.2, C71.3, C71.4, C71.5, C71.6, C71.7, C71.8, C71.9, C72.2, C72.3, C72.4, C72.5, C72.8, C72.9, C75.1, C75.2, C75.3」の場合は、「0:良性」又は「1:良性又は悪性の別不詳」であった場合も集計対象に含めた。

iii 年齢

年齢は、生年月と集計用診断年月を用いて、院内がん登録全国集計と同様に下記の定義で求めた。

診断年月の月>=生年月日の月

⇒診断年月の年-生年

診断年月の月<生年月日の月

⇒診断年月の年-生年-1

上記で求めた年齢が0~99歳までの例を集計対象とした。

上記で選定した例から、下記の⑦~⑩に該当する場合は集計対象から除外した。

⑦性別不詳の場合

半陰陽や性同一性障害による戸籍性別の変更等のため、性別で特有の臓器に発生した腫瘍と戸籍上の性別が矛盾していないかを確認した上で、性別が不詳(項目：性別が9)であった者を除外した。性別で特有の臓器に発生した腫瘍について矛盾があった場合は、臓器に基づいて性別を修正した上で集計した(例：前立腺と登録があった場合に性別が女性として登録されていたら、男性として集計)。

⑧追跡終了日の年月が不明の場合

追跡終了日は、「項目660：予後調査結果」が死亡であった場合は死亡日、生存であった場合は最終生存確認日となる。ただし、死亡例であっても死亡日の年または月が不明の場合は、打ち切り扱いとし、生存最終確認日を追跡終了日とした。追跡終了日の年あるいは月が不明であった場合は、集計対象から除外した。

⑨UICC TNM 分類総合ステージが0期の場合

病期は、患者の予後を予測する上で重要である。院内がん登録では、UICC TNM 分類に基づく治療の選択と評価に不可欠である臨床分類(治療前ステージ)と、術後アジュバント療法の指針となり、予後推定や遠隔成績の計算のための追加情報を提供する術後病理学的分類ステージについて情報を収集している。本集計では、腫瘍切除例(外科的・体腔鏡的・内視鏡的治療の結果が、1:治癒切除、2:非治癒切除、3:治癒/非治癒の別不詳)については腫瘍の縮小を目的

とした化学療法や放射線療法あるいは免疫・内分泌療法などを施行後の腫瘍切除例(術後病理学的ステージ適応外例)及び術後病理学的ステージが不詳であった例を除き、UICC TNM 分類術後病理学的ステージをより患者の治療前の病期を表すとしてUICC TNM 分類総合ステージとして用いた。腫瘍切除例以外はUICC TNM 分類治療前ステージをUICC TNM 分類総合ステージとして用いた。なお、本集計では総合ステージが0期であった場合は、集計対象から除外した。

⑩追跡期間(日数)の確認

追跡期間(日数)は正確な生存率を算出するために必須の項目である。2007年診断例については、品質管理において、登録された追跡期間の確認を行っている。

⑪集計対象施設の選定

生存率の推定値は、生存状況把握割合に影響を受ける。10年生存率を計算する場合には、対象者全員の10年後の生存状況を把握することが必要となる。これまで、全国がんセンター協議会は、加盟施設の生存率を公表してきた。その中で、がんの生存率は生存状況把握割合を100%に近づけるほど、真の値に近づくとされ、概ね95%以上の生存状況把握割合を維持する必要があるとされている。しかしながら、現在の院内がん登録における生存確認調査の実施においては、障害も多く、調査を実施しても生存状況が確認できず、生存状況把握割合が低い施設も存在する。また全国がんセンター協議会の生存率公表においても、改善が要するとされつつも生存状況把握割合が90%を超えた場合に施設の生存率が公表されてきた。これらの経緯を踏まえ、本集計では前述の集計対象例の生存状況把握割合が90%以上の施設を集計対象とした。具体的には、予後調査結果が生存であるが追跡期間(日数)が10年未満の打ち切り例が施設の生存率集計対象例の10%未満である施設を集計対象施設とした。

生存状況把握割合=(1-打ち切り例数/集計対象例数)×100

(2) 集計項目の定義

● 部位区分

表1-3 部位分類コード対応に基づき、作成した。

● 臨床病期

UICC TNM 分類総合ステージ

2007年診断例では、UICC TNM 分類第6版に準拠してUICC TNM 分類の治療前及び術後病理学的ステージが登録されている。

本集計では、がん患者の予後に影響するステージとして、治療開始時点でのがんの状態をより正確に表している術後病理学的ステージがある場合(適応外、不詳、空欄を除く)は術後病理学的ステージを、無い場合は治療前ステージを用いて、UICC TNM 分類総合ステージとして集計に用いた。なお、本集計では、各施設で登録されたステージの値を用いて集計をしており、登録

されている TNM 情報からみてステージが UICC TNM 分類のステージと一致しない場合であってもデータに修正は加えていない。

癌腫別の集計対象は、以下の組織形態コードとする。

8051-8084, 8090-9110, 8120-8131, 8140-8149,
8160-8162, 8190-8221, 8260-8337, 8350-8551,
8570-8576, 8940-8941, 8030-8046, 8150-8157,
8170-8180, 8230-8231, 8246-8247, 8250-8255,
8340-8347, 8560-8562, 8580-8671, 8010-8015,
8020-8022, 8050, 8000-8005

但し、前立腺は 8120-8131 を除く。

● 観血的治療

当該がんに対する外科・体腔鏡的・内視鏡的治療の根治度について、「項目 520:外科的・体腔鏡的・内視鏡的治療の結果」に登録することとなっている。登録の際には、「1:原発巣-治癒切除」、「2:原発巣-非治癒切除」、「3:原発巣-治癒/非治癒の別不詳」、「4:姑息/対象治療、転移巣切除」、「8:その他」、「9:不詳」の中から一つを選択する。本集計では、観血的治療の有無、外科・体腔鏡的・内視鏡的治療の根治度別に生存率を集計した。

(3) 集計方法

前述のとおり選定された集計対象例・集計対象施設において、10年後の生存状況変数を作成し生存率を推定した。追跡期間(日数)が10年未満でかつ予後調査結果が死亡であった場合は、10年後の生存状況＝死亡(1)とした。

生存率は、Kaplan-Meier 法を用いた実測生存率と、国立がん研究センターがん対策情報センターがん登録

センターにおいて作成されたコホート生存率表(2016年版)を用い、Ederer II 法を用いた相対生存率を推定した。がんごとの集計では、これまで部位別にかわり UICC TNM 分類の登録対象である癌腫別に集計を行った。なお、本報告書では StataMP 16.0 (Stata Corporation, College Station, TX, USA)を用い、Paul W. Dickman らが開発したstrsを用いて相対生存率を推定している。

(4) 公表の対象

令和2年度第1回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会がん登録部会での検討に基づき、以下の公表基準に沿って、生存率を公表する。

生存率の推定値は、対象例数、死亡者数等の件数に依存する。一般に対象例数が30例未満の場合、推定された生存率の信頼性が低くなるため、本集計では対象例数が30例未満の場合は、10年生存率を公表しないこととする。なお、各集計表において、集計値が10未満の場合、個人が特定される可能性が高いことから、厚生労働省平成28年8月4日第8回がん診療提供体制のあり方に関する検討会での検討に従い1-3件、4-6件、7-9件といった形で公表する。

なお、都道府県別生存率については、当該都道府県で集計対象が1施設となる場合は表示していない。

参考資料

- 1)全国がんセンター協議会. 全がん協加盟施設におけるがん患者生存率公表にあたっての指針(案) 2004/11/25版 厚生労働省がん研究助成金「地域がん専門診療施設におけるソフト面の整備拡充に関する研究」班

表1-1 集計用診断日決定のルール

集計用症例区分	集計用診断日	備考
1:診断のみ	診断日2	
2:自施設診断自施設治療	診断日2	
3:他施設診断自施設治療	当該腫瘍初診日	
4:初回治療開始後の症例、 もしくは再発症例	当該腫瘍初診日	*
5:剖検	診断日2	死亡日
8:その他	診断日2、当該腫瘍初診日のいずれか	*

* 優先する集計用診断日となる日付が登録されていない場合、診断日 2、当該腫瘍初診日、診断日 1、入院日の中で、2007 年の日付の項目を用いて作成した。

表 1-2 集計用症例区分の決定のルール

診断区分	診断施設	治療方針	集計用症例区分
1:初発	1:自施設診断	1:自施設で治療	2:自施設診断自施設治療
1:初発	1:自施設診断	3:自施設で経過観察	2:自施設診断自施設治療
1:初発	1:自施設診断	4:他施設へ紹介	1:診断のみ
1:初発	1:自施設診断	8:来院中断	1:診断のみ
1:初発	1:自施設診断	9:その他	1:診断のみ
1:初発	2:他施設診断	1:自施設で治療	3:他施設診断自施設治療
1:初発	2:他施設診断	3:自施設で経過観察	3:他施設診断自施設治療
1:初発	2:他施設診断	4:他施設へ紹介	8:その他
1:初発	2:他施設診断	8:来院中断	8:その他
1:初発	2:他施設診断	9:その他	8:その他
2:治療開始後	2:他施設診断	1:自施設で治療	4:初回治療開始後の症例、 もしくは再発症例
2:治療開始後	2:他施設診断	3:自施設で経過観察	4:初回治療開始後の症例、 もしくは再発症例
2:治療開始後	2:他施設診断	4:他施設へ紹介	8:その他
2:治療開始後	2:他施設診断	8:来院中断	8:その他
2:治療開始後	2:他施設診断	9:その他	8:その他

症例区分が登録されているケースでは症例区分を優先、症例区分が登録されていない例では、診断区分・診断施設・治療方針から上記のルールで変換した集計用症例区分を用いて集計用症例区分を作成した。

表 1-3 部位分類コード対応

部位名	第 1 段階 ICD-O-3 形態コード	第 2 段階 ICD-O-3 部位コード
口腔・咽頭		C00-C14
食道		C15
胃		C16
結腸		C18
直腸		C19-C20
大腸		C18-C20
肝臓		C22
胆嚢・胆管		C23-C24
膵臓		C25
喉頭		C32
肺		C33-C34
骨・軟部		C40-C41、C47、C49
皮膚(黒色腫を含む)		C44
乳房		C50
子宮頸部		C53
子宮体部		C54
子宮		C55
卵巣		C56
前立腺		C61
膀胱		C67
腎・他の尿路		C64-C66、C68
脳・中枢神経系		C700、C71、C722-C729、C751-C753
甲状腺		C73
悪性リンパ腫	959-972 974-975	
多発性骨髄腫	973、976	
白血病	980-994	
他の造血器腫瘍	995-998	C421
その他		第 1 段階、第 2 段階で変換された以外の症例

II 2007年10年生生存率集計 結果概要

1. 調査参加施設と登録数

調査を依頼した 742 施設(がん診療連携拠点病院等 442 施設(小児癌拠点含)、都道府県推薦病院 300 施設)のうち、266 施設(がん診療連携拠点病院等 243 施設、都道府県推薦病院 23 施設)から 10 年予後情報付腫瘍データが提供された(協力率 35.8%、がん診療連携拠点病院等 55.0%、都道府県推薦病院 7.7%)。そのうち通年データでなかった施設を除外し、がん診療連携拠点病院等 236 施設、都道府県推薦病院 20 施設のデータを集計した。なお、表 2-1-1 に全登録数と集計対象を示す。

2. 集計対象

(1) 集計の対象

① 集計対象例の選定

i 自施設診断自施設初回治療及び他施設診断自施設初回治療

提出されたデータ全体で、「自施設診断・自施設初回治療(症例区分 2)」が 197,627 例(63.5%)、「他施設診断・自施設初回治療(症例区分 3)」が 64,128 例(20.6%)であり、全登録数の 84.1%を占めた。

ii 悪性新生物<腫瘍>

症例区分 2, 3(自施設診断・自施設初回治療又は他施設診断・自施設初回治療)のうち悪性新生物<腫瘍>(新生物<腫瘍>の性状コードが 3)は、237,540 例(90.7%)であった。脳腫瘍の良性又は良性・悪性の別不詳を合わせると集計対象腫瘍例は、240,927 例(92.0%)であった。

iii 年齢

診断時の年齢を見ると、100 歳以上が 40 例あり、生存率集計からは除外した。年齢別にみると、70 歳代が 31.8%と最も多く、次いで 60 歳代が 27.0%であった。

上記で選定した例から、性別不詳及び追跡終了日不明または UICC TNM 分類総合ステージ 0 期の合計 265 例を集計対象から除外した。

② 追跡期間(日数)の確認

予後情報付データ収集では、品質管理において追跡期間の確認を行った。なお、追跡終了日(死亡例の場合は、死亡日の年月、生存例の場合は、生存最終確認日の年月)が不明の場合は集計対象から除外した。但し、死亡例で死亡日の年月が不明であっても、生存最終確認日の年月が判明している場合は、生存最終確認日を追跡終了日とし、打ち切り例として集計した。

(2) 生存状況把握割合

各施設における集計対象例に対する生存状況把握割合について検討した結果、最も低かった施設の生存状況把握割合は、50.0%で、最も高かった施設は 100.0%であった。都道府県・施設別生存状況把握割合について図 2-1 に示した。以降の集計結果では、生存状況把握割合が 90%以上であった 181 施設(がん診療連携拠点病院 175 施設、都道府県推薦病院 6 施設)における登録例を集計対象とした。

3. 相対生存率集計対象者

全がんで生存状況把握割合が 90%以上であった 181 施設において集計対象例は、183,463 例であった。

表 2-1-1 調査参加施設の全登録数と集計対象

	集計対象外施設		集計対象施設		全体	
	75 施設	(%)	181 施設	(%)	256 施設	(%)
全登録数	72,745	100.0	238,696	100.0	311,441	100.0
症例区分別登録数						
1. 診断のみ	3,338	4.6	10,224	4.3	13,562	4.4
2. 自施設診断・自施設初回治療	49,050	67.4	148,577	62.2	197,627	63.5
3. 他施設診断・自施設初回治療	13,530	18.6	50,598	21.2	64,128	20.6
4. 初回治療開始後・再発	5,384	7.4	21,334	8.9	26,718	8.6
5. 剖検	35	0.0	112	0.0	147	0.0
6. 不明・その他	1,408	1.9	7,851	3.3	9,259	3.0
症例区分(2, 3)(再掲)	62,580	86.0	199,175	83.4	261,755	84.0
症例区分 2, 3のうち						
良性	847	1.4	1,996	1.0	2,843	1.1
良性又は悪性の別不詳	173	0.3	391	0.2	564	0.2
上皮内癌	5,359	8.6	15,449	7.8	20,808	7.9
悪性新生物<腫瘍>	56,201	89.8	181,339	91.0	237,540	90.7
集計対象腫瘍*	57,217	91.4	183,710	92.2	240,927	92.0
症例区分 2, 3、集計対象腫瘍のうち(年齢不詳除く)						
年齢 0~14 歳	255	0.4	674	0.4	929	0.4
15~39 歳	1,936	3.4	6,609	3.6	8,545	3.5
40 歳代	3,446	6.0	12,031	6.5	15,477	6.4
50 歳代	9,355	16.4	31,799	17.3	41,154	17.1
60 歳代	15,414	26.9	49,637	27.0	65,051	27.0
70 歳代	18,557	32.4	58,176	31.7	76,733	31.8
80-99 歳	8,247	14.4	24,755	13.5	33,002	13.7
100 歳以上	11	0.0	29	0.0	40	0.0
0~99 歳(再掲)	57,210	100.0	183,681	100.0	240,891	100.0
除外対象(以下重複有)	47	0.1	218	0.1	265	0.1
性別不詳	0	0.0	0	0.0	0	0.0
追跡終了日不明	(1-3)		(4-6)		(7-9)	
総合ステージ 0 期	44	17.3	213	31.6	257	27.7
集計対象例	57,163		183,463		240,626	

*症例区分 2, 3のうち、悪性新生物<腫瘍>、脳・中枢神経系に発生した良性または良性・悪性の別不詳の腫瘍を含む

表 2-2-1 がん診療連携拠点病院等調査参加施設の全登録数及び症例区分 2, 3 の登録数

都道府県	施設名称	集計対象	全登録数	自施設 診断自 施設治 療（症 例区分 2)	他施設 診断自 施設治 療（症 例区分 3)	自施設 治療 （症例 区分 2, 3）登録 割合
総数		175	300,893	189,558	62,924	83.9
北海道	JA 北海道厚生連旭川厚生病院	集計対象	1245	758	270	82.6
北海道	王子総合病院	集計対象	737	567	93	89.6
北海道	市立釧路総合病院		799	621	98	90.0
北海道	JA 北海道厚生連帯広厚生病院	集計対象	590	459	115	97.3
北海道	北見赤十字病院	集計対象	948	700	106	85.0
北海道	社会医療法人母恋 日鋼記念病院	集計対象	481	313	44	74.2
青森	青森県立中央病院		1468	965	327	88.0
岩手	岩手県立中央病院	集計対象	1724	1245	338	91.8
岩手	岩手県立二戸病院	集計対象	324	216	36	77.8
岩手	岩手県立中部病院	集計対象	566	341	103	78.4
岩手	岩手県立磐井病院		452	322	101	93.6
岩手	岩手県立宮古病院		424	315	51	86.3
宮城	東北大学病院	集計対象	3152	1189	806	63.3
宮城	宮城県立がんセンター	集計対象	1799	879	407	71.5
宮城	石巻赤十字病院	集計対象	1452	803	155	66.0
宮城	独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター		953	654	269	96.9
宮城	大崎市民病院	集計対象	1479	1050	262	88.7
宮城	独立行政法人労働者健康安全機構 東北労災病院	集計対象	746	517	156	90.2
秋田	秋田大学医学部附属病院	集計対象	1429	588	533	78.4
秋田	秋田県厚生農業協同組合連合会 大曲厚生医療センター	集計対象	549	421	102	95.3
秋田	秋田県厚生農業協同組合連合会 能代厚生医療センター		441	323	41	82.5
秋田	秋田赤十字病院	集計対象	1084	765	197	88.7
山形	山形県立中央病院	集計対象	1708	1040	515	91.0
山形	山形大学医学部附属病院	集計対象	1158	671	296	83.5
山形	山形市立病院済生館	集計対象	826	647	77	87.7
山形	置賜広域病院企業団 公立置賜総合病院	集計対象	692	498	126	90.2
山形	日本海総合病院		932	649	184	89.4
福島	労働者健康安全機構 福島労災病院		912	591	249	92.1
福島	一般財団法人太田総合病院附属太田西ノ内病院	集計対象	1383	1007	307	95.0
福島	一般財団法人竹田健康財団 竹田総合病院	集計対象	976	507	318	84.5
福島	総合南東北病院	集計対象	1217	747	264	83.1
茨城	茨城県立中央病院	集計対象	1319	932	213	86.8
茨城	茨城県厚生農業協同組合連合会 総合病院土浦協同病院・茨城県地域がんセンター	集計対象	1146	902	140	90.9
茨城	株式会社日立製作所 日立総合病院・茨城県地域がんセンター		1421	1176	178	95.3
茨城	友愛記念病院		704	379	138	73.4
茨城	医療法人社団善仁会 小山記念病院		363	148	(4-6)	42.4
栃木	地方独立行政法人栃木県立がんセンター	集計対象	2096	1095	614	81.5
栃木	自治医科大学附属病院	集計対象	3144	1835	700	80.6
栃木	栃木県済生会宇都宮病院	集計対象	1337	1000	156	86.5
栃木	獨協医科大学病院	集計対象	1765	1307	319	92.1
栃木	那須赤十字病院	集計対象	544	416	51	85.8
群馬	群馬県立がんセンター	集計対象	1651	738	537	77.2
群馬	独立行政法人国立病院機構渋川医療センター	集計対象	422	267	84	83.2
群馬	独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター	集計対象	601	431	90	86.7
埼玉	さいたま赤十字病院	集計対象	987	782	131	92.5
埼玉	埼玉県立がんセンター	集計対象	3047	1788	933	89.3
埼玉	深谷赤十字病院	集計対象	619	469	123	95.6
埼玉	春日部市立医療センター	集計対象	523	361	46	77.8
埼玉	さいたま市立病院		992	784	118	90.9
埼玉	埼玉医科大学総合医療センター		2092	1122	424	73.9
千葉	国立研究開発法人 国立がん研究センター東病院	集計対象	4703	1840	1654	74.3
千葉	国保旭中央病院	集計対象	1791	1403	167	87.7
千葉	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院	集計対象	1812	1321	322	90.7
千葉	国保直営総合病院君津中央病院	集計対象	869	674	126	92.1
千葉	千葉県がんセンター	集計対象	3764	1203	1407	69.3

都道府県	施設名称	集計対象	全登録数	自施設 診断自 施設治 療（症 例区分 2）	他施設 診断自 施設治 療（症 例区分 3）	自施設 治療 （症例 区分2, 3）登録 割合
千葉	独立行政法人労働者健康安全機構 千葉労災病院	集計対象	784	571	111	87.0
千葉	船橋市立医療センター	集計対象	527	362	142	95.6
千葉	順天堂大学医学部附属浦安病院	集計対象	1186	841	162	84.6
千葉	東京慈恵会医科大学附属柏病院	集計対象	1229	825	274	89.4
千葉	日本医科大学千葉北総病院	集計対象	595	439	120	93.9
東京	国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院	集計対象	7794	2610	2551	66.2
東京	東京都立駒込病院	集計対象	3521	1711	706	68.6
東京	NTT 東日本関東病院	集計対象	2039	1071	448	74.5
東京	日本赤十字社医療センター	集計対象	1803	797	218	56.3
東京	日本大学医学部附属板橋病院	集計対象	1357	964	247	89.2
東京	武蔵野赤十字病院	集計対象	1009	656	169	81.8
東京	がん研有明病院	集計対象	6904	2621	2518	74.4
東京	国立大学法人 東京大学医学部附属病院	集計対象	2266	1288	567	81.9
東京	日本医科大学付属病院	集計対象	1979	1353	454	91.3
東京	聖路加国際病院	集計対象	2079	1267	430	81.6
東京	順天堂大学医学部附属順天堂医院	集計対象	3022	1713	747	81.4
神奈川	神奈川県立がんセンター	集計対象	2836	1707	812	88.8
神奈川	国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院	集計対象	1793	1271	245	84.6
神奈川	横浜市立市民病院	集計対象	1177	845	245	92.6
神奈川	小田原市立病院	集計対象	657	412	75	74.1
神奈川	相模原協同病院	集計対象	618	462	90	89.3
神奈川	公立大学法人 横浜市立大学附属病院	集計対象	1627	880	491	84.3
神奈川	聖マリアンナ医科大学病院	集計対象	608	484	76	92.1
神奈川	藤沢市民病院	集計対象	1132	850	167	89.8
新潟	新潟県立がんセンター新潟病院	集計対象	2892	1691	970	92.0
新潟	長岡赤十字病院	集計対象	1175	907	204	94.6
新潟	新潟大学医歯学総合病院	集計対象	1379	775	501	92.5
富山	富山県立中央病院	集計対象	1771	1206	434	92.6
富山	黒部市民病院	集計対象	589	468	76	92.4
富山	富山大学附属病院	集計対象	968	517	244	78.6
富山	厚生連高岡病院	集計対象	1145	809	217	89.6
富山	高岡市民病院	集計対象	575	425	74	86.8
富山	市立砺波総合病院	集計対象	592	506	33	91.0
石川	国立大学法人金沢大学附属病院	集計対象	1365	905	316	89.5
石川	独立行政法人国立病院機構 金沢医療センター	集計対象	807	504	95	74.2
石川	金沢医科大学病院	集計対象	884	607	152	85.9
石川	小松市民病院	集計対象	481	394	48	91.9
福井	福井県立病院	集計対象	1290	911	214	87.2
福井	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 福井県済生会病院	集計対象	1274	900	226	88.4
福井	福井赤十字病院	集計対象	1073	848	122	90.4
福井	福井大学医学部附属病院	集計対象	953	603	238	88.2
山梨	山梨県立中央病院	集計対象	1573	966	313	81.3
山梨	国立大学法人 山梨大学医学部附属病院	集計対象	1407	893	265	82.3
長野	国立大学法人 信州大学医学部附属病院	集計対象	1204	670	390	88.0
長野	諏訪赤十字病院	集計対象	743	548	139	92.5
長野	社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院	集計対象	1024	842	91	91.1
岐阜	岐阜市民病院	集計対象	992	759	177	94.4
岐阜	高山赤十字病院	集計対象	425	300	24	76.2
岐阜	岐阜県総合医療センター	集計対象	977	711	191	92.3
岐阜	岐阜県立多治見病院	集計対象	996	783	143	93.0
岐阜	大垣市民病院	集計対象	1556	1284	156	92.5
岐阜	社会医療法人厚生会 木沢記念病院	集計対象	1073	340	75	38.7
静岡	静岡県立静岡がんセンター	集計対象	4516	2248	1497	82.9
静岡	静岡県立総合病院	集計対象	2110	1366	544	90.5
静岡	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷三方原病院	集計対象	1350	865	158	75.8
静岡	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷浜松病院	集計対象	1577	1160	309	93.2
静岡	順天堂大学医学部附属静岡病院	集計対象	1038	712	154	83.4
静岡	静岡市立静岡病院	集計対象	477	413	39	94.8
静岡	藤枝市立総合病院	集計対象	896	713	51	85.3

都道府県	施設名称	集計対象	全登録数	自施設 診断自 施設治 療（症 例区分 2）	他施設 診断自 施設治 療（症 例区分 3）	自施設 治療 （症例 区分2、 3）登録 割合
静岡	浜松医科大学医学部附属病院	集計対象	1156	586	408	86.0
静岡	浜松医療センター	集計対象	883	680	132	92.0
愛知	愛知県がんセンター	集計対象	2831	1272	1218	88.0
愛知	愛知県厚生農業協同連合会安城更生病院	集計対象	1836	1137	229	74.4
愛知	海南病院		868	669	84	86.8
愛知	国立病院機構 名古屋医療センター		1160	927	119	90.2
愛知	小牧市民病院		1498	1154	206	90.8
愛知	豊橋市民病院	集計対象	1531	1130	285	92.4
愛知	名古屋大学医学部附属病院		1925	990	645	84.9
愛知	独立行政法人 地域医療機能推進機構 中京病院		1008	801	141	93.5
愛知	一宮市立市民病院	集計対象	889	722	137	96.6
愛知	公立陶生病院	集計対象	933	759	88	90.8
愛知	愛知県厚生農業協同組合連合会 豊田厚生病院	集計対象	899	684	103	87.5
愛知	名古屋第一赤十字病院	集計対象	1780	1316	246	87.8
三重	松阪中央総合病院		701	574	28	85.9
三重	三重県厚生農業協同組合連合会鈴鹿中央総合病院		128	106	11	91.4
滋賀	市立長浜病院	集計対象	478	419	20	91.8
滋賀	滋賀県立総合病院		910	654	138	87.0
滋賀	大津赤十字病院		1043	852	128	94.0
京都	京都桂病院		1191	976	162	95.5
京都	京都市立病院	集計対象	773	557	127	88.5
京都	京都第一赤十字病院	集計対象	1193	962	215	98.7
京都	京都第二赤十字病院		1316	1077	108	90.0
京都	独立行政法人国立病院機構 京都医療センター		1316	860	235	83.2
京都	市立福知山市民病院	集計対象	585	350	74	72.5
大阪	大阪府立病院機構 大阪急性期・総合医療センター	集計対象	1281	934	183	87.2
大阪	市立岸和田市民病院	集計対象	961	813	36	88.3
大阪	地方独立行政法人市立東大阪医療センター	集計対象	1178	941	120	90.1
大阪	市立豊中病院	集計対象	1547	1159	192	87.3
大阪	大阪国際がんセンター	集計対象	3368	2537	210	81.6
大阪	地方独立行政法人大阪市民病院機構大阪市立総合医療センター	集計対象	2792	1442	628	74.1
大阪	大阪赤十字病院	集計対象	1587	1318	213	96.5
大阪	独立行政法人国立病院機構 大阪南医療センター	集計対象	774	524	111	82.0
大阪	独立行政法人労働者健康安全機構大阪労災病院	集計対象	1484	1066	171	83.4
大阪	国立病院機構大阪医療センター	集計対象	1585	1028	406	90.5
兵庫	兵庫県立がんセンター	集計対象	2772	1750	531	82.3
兵庫	神戸市立医療センター中央市民病院	集計対象	1672	1143	389	91.6
兵庫	独立行政法人労働者健康安全機構 関西労災病院		1806	1096	361	80.7
兵庫	公立学校共済組合近畿中央病院		542	412	91	92.8
兵庫	姫路赤十字病院	集計対象	1311	954	266	93.1
兵庫	赤穂市民病院	集計対象	495	405	24	86.7
兵庫	公立豊岡病院組合立豊岡病院	集計対象	709	569	90	92.9
兵庫	兵庫県立柏原病院	集計対象	170	101	44	85.3
奈良	奈良県立医科大学附属病院	集計対象	1742	934	323	72.2
奈良	奈良県総合医療センター		630	464	153	97.9
和歌山	紀南病院		657	421	125	83.1
和歌山	独立行政法人国立病院機構 南和歌山医療センター		411	191	144	81.5
和歌山	日本赤十字社和歌山医療センター	集計対象	980	800	143	96.2
和歌山	橋本市市民病院		483	276	60	69.6
鳥取	鳥取県立厚生病院	集計対象	340	290	34	95.3
鳥取	独立行政法人国立病院機構 米子医療センター	集計対象	424	234	83	74.8
鳥取	鳥取県立中央病院	集計対象	613	506	61	92.5
島根	松江市立病院	集計対象	807	568	115	84.6
島根	松江赤十字病院	集計対象	1025	819	123	91.9
島根	島根大学医学部附属病院	集計対象	1069	779	160	87.8
島根	島根県立中央病院		1246	1041	116	92.9
島根	独立行政法人国立病院機構 浜田医療センター	集計対象	490	311	40	71.6
岡山	岡山済生会総合病院		1600	948	348	81.0

都道府県	施設名称	集計対象	全登録数	自施設 診断自 施設治 療(症 例区分 2)	他施設 診断自 施設治 療(症 例区分 3)	自施設 治療 (症例 区分2, 3)登録 割合
岡山	公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院	集計対象	2834	2084	395	87.5
岡山	津山中央病院	集計対象	1254	835	174	80.5
広島	県立広島病院	集計対象	1206	679	176	70.9
広島	地方独立行政法人広島市立病院機構 広島市立広島市民病院		2424	1522	589	87.1
広島	広島赤十字・原爆病院	集計対象	1606	1146	222	85.2
広島	独立行政法人国立病院機構 呉医療センター	集計対象	1410	843	218	75.2
広島	東広島医療センター	集計対象	546	357	102	84.1
広島	広島県厚生農業協同組合連合会 尾道総合病院		407	297	67	89.4
広島	福山市民病院	集計対象	853	501	226	85.2
広島	市立三次中央病院		528	371	87	86.7
山口	山口県立総合医療センター		644	518	70	91.3
山口	国立病院機構 岩国医療センター	集計対象	673	499	86	86.9
山口	山口県厚生農業協同組合連合会周東総合病院	集計対象	451	362	44	90.0
山口	独立行政法人地域医療機能推進機構徳山中央病院		1026	802	177	95.4
山口	山口大学医学部附属病院		1236	692	416	89.6
徳島	徳島県立中央病院	集計対象	813	610	160	94.7
徳島	徳島大学病院		1083	740	287	94.8
徳島	徳島赤十字病院		874	530	208	84.4
香川	独立行政法人労働者健康安全機構香川労災病院	集計対象	322	228	71	92.9
香川	三豊総合病院	集計対象	844	734	66	94.8
香川	高松赤十字病院	集計対象	813	633	108	91.1
香川	国立大学法人 香川大学医学部附属病院	集計対象	1219	646	295	77.2
愛媛	市立宇和島病院	集計対象	917	709	132	91.7
愛媛	独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター	集計対象	2908	2078	322	82.5
愛媛	住友別子病院	集計対象	558	350	67	74.7
愛媛	愛媛大学医学部附属病院	集計対象	1266	611	326	74.0
愛媛	松山赤十字病院	集計対象	1141	931	78	88.4
愛媛	社会福祉法人恩賜財団 済生会今治病院	集計対象	568	383	62	78.3
高知	国立大学法人 高知大学医学部附属病院	集計対象	1462	843	338	80.8
高知	高知県・高知市病院企業団立 高知医療センター	集計対象	1010	583	384	95.7
福岡	久留米大学病院	集計対象	1793	1227	528	97.9
福岡	公立八女総合病院	集計対象	675	494	96	87.4
福岡	社会保険田川病院	集計対象	536	349	70	78.2
福岡	飯塚病院	集計対象	1680	1277	203	88.1
福岡	独立行政法人国立病院機構福岡東医療センター	集計対象	355	278	30	86.8
福岡	北九州市立医療センター	集計対象	1450	965	433	96.4
福岡	独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター	集計対象	2058	1038	669	82.9
福岡	国立大学法人 九州大学病院	集計対象	3294	1498	789	69.4
福岡	福岡県済生会福岡総合病院	集計対象	1058	614	232	80.0
福岡	聖マリア病院	集計対象	857	742	61	93.7
福岡	独立行政法人地域医療機能推進機構 九州病院	集計対象	1601	958	310	79.2
福岡	産業医科大学病院	集計対象	1875	1054	323	73.4
佐賀	地方独立行政法人 佐賀県医療センター好生館	集計対象	1048	636	214	81.1
佐賀	国立大学法人 佐賀大学医学部附属病院	集計対象	1510	767	434	79.5
佐賀	唐津赤十字病院	集計対象	537	317	81	74.1
佐賀	独立行政法人国立病院機構 嬉野医療センター	集計対象	530	375	99	89.4
長崎	日本赤十字社長崎原爆病院	集計対象	749	520	162	91.1
長崎	地方独立行政法人 佐世保市総合医療センター	集計対象	1358	952	347	95.7
長崎	独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター	集計対象	1234	798	230	83.3
長崎	長崎みなとメディカルセンター		729	561	140	96.2
長崎	長崎大学病院	集計対象	1402	644	604	89.0
熊本	熊本大学病院	集計対象	2177	1096	619	78.8
熊本	独立行政法人労働者健康安全機構 熊本労災病院	集計対象	572	391	111	87.8
熊本	人吉医療センター	集計対象	434	250	76	75.1
熊本	熊本赤十字病院	集計対象	1368	825	308	82.8
熊本	済生会熊本病院		1522	864	330	78.4
大分	大分県立病院	集計対象	1224	988	130	91.3
大分	大分赤十字病院	集計対象	549	381	106	88.7
鹿児島	鹿児島大学病院		1465	688	616	89.0

都道府 県	施設名称	集計対象	全登録 数	自施設 診断自 施設治 療（症 例区分 2)	他施設 診断自 施設治 療（症 例区分 3)	自施設 治療 （症例 区分 2, 3）登録 割合
鹿児島	国立病院機構 鹿児島医療センター	集計対象	504	251	172	83.9
沖縄	地方独立行政法人那覇市立病院	集計対象	498	361	84	89.4
沖縄	北部地区医師会病院		231	127	17	62.3
沖縄	沖縄県立中部病院	集計対象	766	501	89	77.0
沖縄	国立大学法人 琉球大学医学部附属病院	集計対象	929	376	309	73.7

表 2-2-2 都道府県推薦病院調査参加施設の全登録数及び症例区分 2, 3 の登録数

都道府県	施設名称	集計対象	全登録数	自施設診断 自施設治療 (症例区分 2)	他施設診 断自施設 治療 (症 例区分 3)	自施設治療 (症例区分 2, 3) 登録 割合
総数		6	10,548	8,069	1,204	87.9
北海道	製鉄記念室蘭病院		503	468	12	95.4
北海道	苫小牧市立病院		369	326	(1-3)	88.9
青森	八戸市立市民病院	集計対象	940	628	262	94.7
青森	三沢市立三沢病院		348	224	58	81.0
秋田	中通総合病院	集計対象	375	272	52	86.4
茨城	茨城西南医療センター病院	集計対象	320	232	35	83.4
東京	日本医科大学多摩永山病院		362	265	67	91.7
富山	富山労災病院		177	148	10	89.3
静岡	沼津市立病院	集計対象	1048	701	139	80.2
静岡	焼津市立総合病院	集計対象	847	654	60	84.3
愛知	医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院		1104	924	99	92.7
三重	済生会松阪総合病院		539	469	27	92.0
京都	京都岡本記念病院		314	209	17	72.0
大阪	地方独立行政法人 市立吹田市民病院		490	340	66	82.9
兵庫	神鋼記念病院		388	338	33	95.6
鳥取	鳥取市立病院		593	454	67	87.9
島根	松江医療センター		121	105	(7-9)	92.6
高知	高知赤十字病院		585	441	77	88.5
熊本	天草地域医療センター	集計対象	231	159	53	91.8
沖縄	社会医療法人敬愛会 中頭病院		894	712	61	86.5

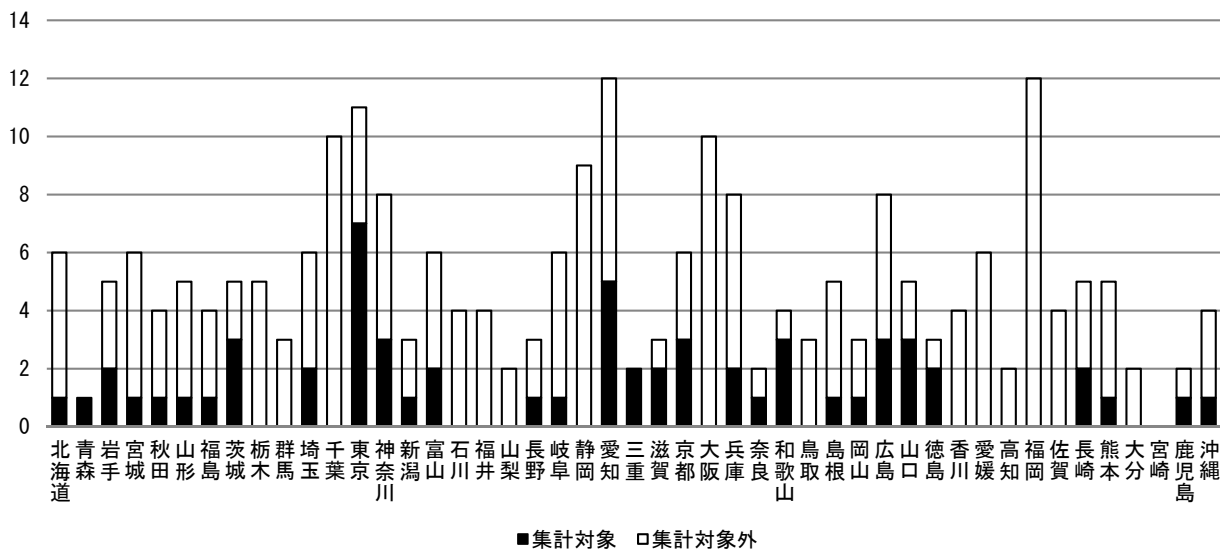


図 2-1 がん診療連携拠点病院等における都道府県・施設別生存状況把握割合 (都道府県推薦病院を除く)

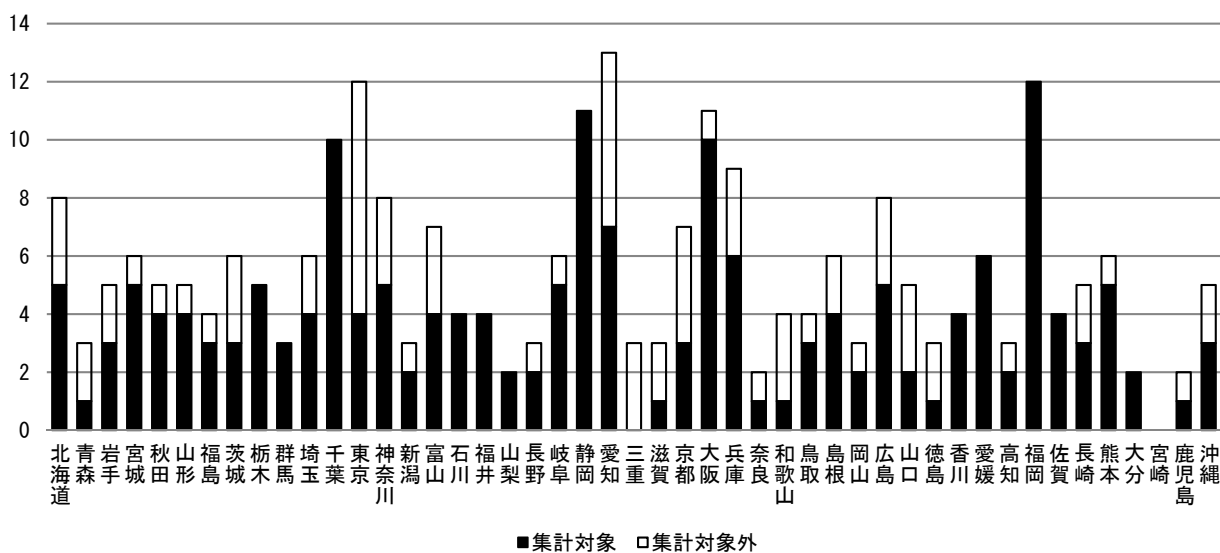


図 2-1 参考 調査参加施設における都道府県・施設別生存状況把握割合

Ⅲ 2007年10年生存率集計 結果詳細(全体) :悪性新生物<腫瘍>

1. 全がん

	対象数	施設数	死亡数	平均年齢	生存状況把握割合 (%)
2007	183,463	181	96,126	66.1	96.2

(0) 全がんの生存率集計値

全がんでの生存率集計値の算定に当たり、特性が異なるがんの生存率算定の意義について疑問を呈する声もあったが、先行する地域がん登録、全国がんセンター協議会加盟施設における既存生存率集計と比較するため、ここでは院内がん登録10年生存率集計においても全がんでの生存率集計結果について提示する。

(1) 生存状況把握割合

対象者は183,463例で、その内10年以内に死亡していた者は96,126例、打ち切りが7,018例であった。全体として、生存状況把握割合は96.2%であった。

(2) 対象者の属性

本集計対象者の属性を表3-1-1に示す。男性が58.0%、女性が42.0%とやや男性が多かった。診断時の年齢は、男女とも70歳代が最も多く、次いで60歳代となっており、60歳代、70歳代で全体の58.7%を占めた。60.3%の対象者に観血的治療が実施されており、51.9%が原発巣・治癒切除であった。発見経緯別にみると、その他・不明が6割以上であった。部位別にみると、男性では胃、肺、前立腺・大腸の順に、女性では乳房、大腸、胃の順に多かった。

表 3-1-1 対象者の属性

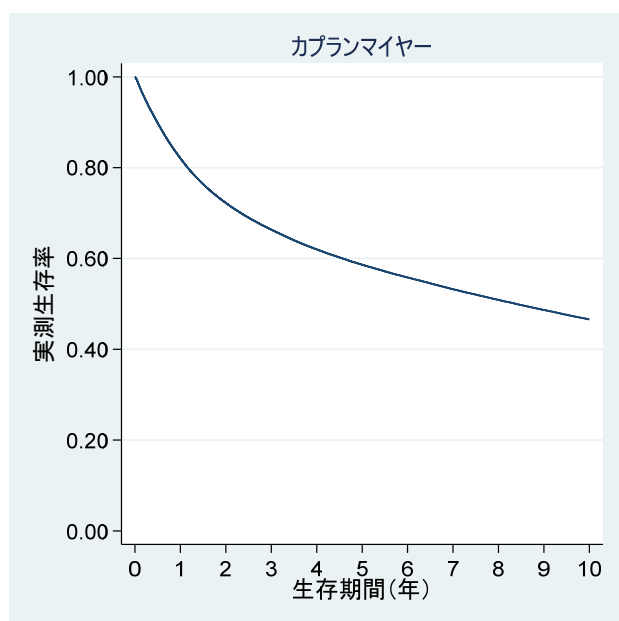
	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	106,371	100.0	77,092	100.0	183,463	100.0
拠点病院等	104,675	98.4	75,891	98.4	180,566	98.4
都道府県推薦病院	1,696	1.6	1,201	1.6	2,897	1.6
年齢						
平均年齢(SD)	67.7	(SD:11.8)	63.9	(SD:14.7)	66.1	(SD:13.2)
0-14歳	372	0.3	302	0.4	674	0.4
15-39歳	2,267	2.1	4,335	5.6	6,602	3.6
40歳代	3,897	3.7	8,116	10.5	12,013	6.5
50歳代	16,276	15.3	15,491	20.1	31,767	17.3
60歳代	31,423	29.5	18,156	23.6	49,579	27.0
70歳代	38,180	35.9	19,916	25.8	58,096	31.7
80歳以上	13,956	13.1	10,776	14.0	24,732	13.5
観血的治療						
有	57,391	54.0	53,280	69.1	110,671	60.3
原発巣・治癒切除	49,050	46.1	46,159	59.9	95,209	51.9
原発巣・非治癒切除	5,314	5.0	4,273	5.5	9,587	5.2
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	3,027	2.8	2,848	3.7	5,875	3.2
無	48,980	46.0	23,812	30.9	72,792	39.7
発見経緯						
がん検診	8,611	8.1	7,537	9.8	16,148	8.8
健康診断・人間ドック	10,128	9.5	5,018	6.5	15,146	8.3
他疾患経過観察中	27,387	25.7	14,285	18.5	41,672	22.7
その他・不明	60,245	56.6	50,252	65.2	110,497	60.2
部位						
口腔咽頭	4,040	3.8	1,479	1.9	5,519	3.0
食道	5,383	5.1	882	1.1	6,265	3.4
胃	20,025	18.8	8,494	11.0	28,519	15.5
結腸	7,939	7.5	6,439	8.4	14,378	7.8
直腸	5,488	5.2	2,991	3.9	8,479	4.6
大腸(再掲)	13,427	12.6	9,430	12.2	22,857	12.5
肝臓	6,646	6.2	2,913	3.8	9,559	5.2
胆嚢胆管	2,031	1.9	1,741	2.3	3,772	2.1
膵臓	3,130	2.9	2,409	3.1	5,539	3.0
喉頭	1,668	1.6	100	0.1	1,768	1.0
肺	15,887	14.9	6,908	9.0	22,795	12.4
骨軟部	643	0.6	474	0.6	1,117	0.6
皮膚	1,891	1.8	1,866	2.4	3,757	2.0
乳房	78	0.1	16,913	21.9	16,991	9.3
子宮頸部	-		3,479	4.5	3,479	1.9
子宮体部	-		3,647	4.7	3,647	2.0
子宮	-		38	0.0	38	0.0
卵巣	-		2,514	3.3	2,514	1.4
前立腺	13,407	12.6	-		13,407	7.3
膀胱	2,890	2.7	830	1.1	3,720	2.0
腎尿路	3,195	3.0	1,419	1.8	4,614	2.5
脳神経	1,498	1.4	1,867	2.4	3,365	1.8
甲状腺	827	0.8	2,371	3.1	3,198	1.7
悪性リンパ腫	3,592	3.4	2,918	3.8	6,510	3.5
多発性骨髄腫	711	0.7	626	0.8	1,337	0.7
白血病	1,557	1.5	1,162	1.5	2,719	1.5
その他の血液	909	0.9	561	0.7	1,470	0.8
その他	2,936	2.8	2,051	2.7	4,987	2.7

(3)10年生存率

表 3-1-2 に、実測生存率及び相対生存率を示す。年齢が高いほど実測生存率と相対生存率との乖離が大きくなっているが、これは若年者と比較して高齢者ではがん以外の要因で死亡する例が多くなることが影響していると考えられる。観血的治療の実施別にみると、男女ともに観血的治療有、特に原発巣・治癒切除例において生存率が高くなっていた。

表 3-1-2 属性別 10 年生存率

	男性			女性			全体		
	実測	相対	95%信頼区間	実測	相対	95%信頼区間	実測	相対	95%信頼区間
全体	39.8	56.1	55.7 56.6	55.9	65.4	65.0 65.8	46.6	60.1	59.8 60.4
拠点病院等	39.9	56.2	55.8 56.7	56.0	65.4	65.0 65.9	46.7	60.2	59.9 60.5
都道府県推薦病院	33.5	49.6	46.2 53.0	52.5	62.1	58.7 65.4	41.4	54.9	52.5 57.3
年齢									
0-14 歳	77.5	77.7	73.1 81.6	76.1	76.2	70.9 80.7	76.9	77.0	73.6 80.1
15-39 歳	71.2	72.0	70.0 73.8	79.8	80.3	79.0 81.5	76.9	77.5	76.4 78.5
40 歳代	59.5	61.4	59.8 63.0	79.5	80.7	79.8 81.6	73.0	74.5	73.7 75.3
50 歳代	52.1	56.7	55.8 57.5	69.7	72.1	71.3 72.8	60.7	64.3	63.7 64.8
60 歳代	48.2	58.0	57.3 58.6	60.9	65.7	65.0 66.5	52.8	60.8	60.3 61.3
70 歳代	33.1	54.7	53.9 55.5	44.4	56.9	56.0 57.8	37.0	55.4	54.8 56.0
80 歳以上	12.9	49.1	46.9 51.3	20.0	49.5	47.6 51.5	15.9	49.2	47.8 50.7
観血的治療									
有	53.9	74.5	73.9 75.0	69.9	81.2	80.7 81.6	61.6	77.8	77.4 78.1
原発巣・治癒切除	57.3	79.3	78.7 79.9	73.6	85.6	85.1 86.0	65.2	82.4	82.0 82.8
原発巣・非治癒切除	27.2	36.4	34.8 38.1	35.5	41.1	39.4 42.8	30.9	38.5	37.4 39.7
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	45.8	62.8	60.3 65.2	60.1	69.2	67.0 71.2	52.7	65.9	64.3 67.5
無	23.1	34.1	33.6 34.7	24.3	29.0	28.4 29.7	23.5	32.4	31.9 32.8



2. 胃癌

	対象数	施設数	死亡数	平均年齢	生存状況把握割合 (%)
2007	28,256	181	14,007	68.4	96.1
I 期	17,642	181	5,684	68.4	95.7
II 期	2,207	179	1,164	68.6	96.0
III 期	2,396	180	1,654	68.5	96.6
IV 期	5,569	181	5,127	67.7	97.5

(1) 生存状況把握割合

集計対象者は、28,256 例で、10 年以内に死亡していた者は 14,007 例、打ち切りが 1,096 例で、生存状況把握割合は、全体で 96.1%であった。

(2) 対象者の属性

胃の集計対象者の属性を表 3-2-1 に示す。性別にみると、男性が 7 割以上を占めた。診断時の年齢は、

70 歳代が最も多く、次いで 60 歳代となっており、60 歳代・70 歳代で全体の 6 割以上を占めた。UICC TNM 分類総合ステージを見ると、I 期が約 6 割、次いで IV 期が 19.7%を占めた。80.2%において観血的治療が実施されており、72.2%が原発巣・治癒切除例であった。発見経緯としては、他疾患経過観察中が 24.3%であった。

表 3-2-1 対象者の属性

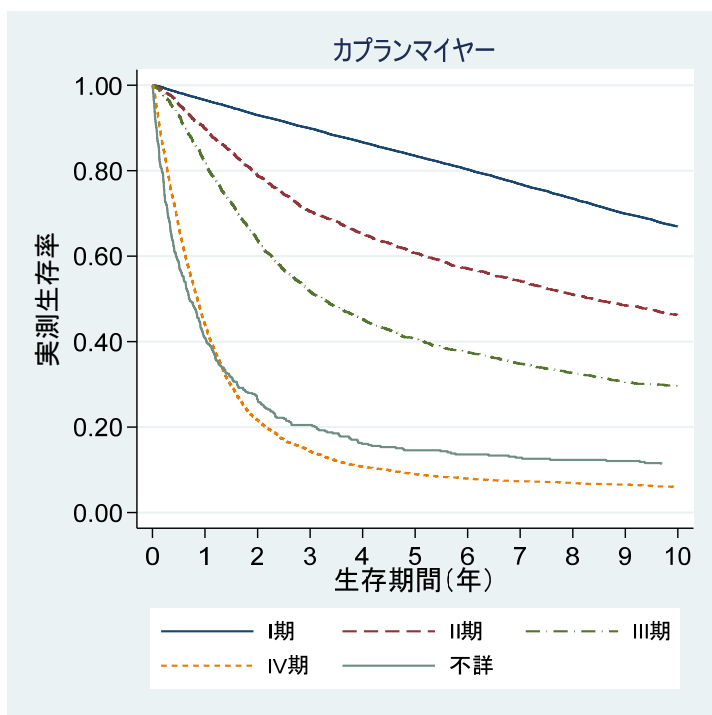
	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	19,890	100.0	8,366	100.0	28,256	100.0
拠点病院等	19,612	98.6	8,255	98.7	27,867	98.6
都道府県推薦病院	278	1.4	111	1.3	389	1.4
年齢						
平均年齢 (SD)	68.4	(SD:10.3)	68.4	(SD:12.6)	68.4	(SD:11.0)
15-39 歳	178	0.9	213	2.5	391	1.4
40 歳代	674	3.4	490	5.9	1,164	4.1
50 歳代	3,134	15.8	1,276	15.3	4,410	15.6
60 歳代	5,921	29.8	1,955	23.4	7,876	27.9
70 歳代	7,379	37.1	2,794	33.4	10,173	36.0
80 歳以上	2,604	13.1	1,638	19.6	4,242	15.0
UICC TNM 分類総合ステージ						
I 期	12,637	63.5	5,005	59.8	17,642	62.4
II 期	1,513	7.6	694	8.3	2,207	7.8
III 期	1,623	8.2	773	9.2	2,396	8.5
IV 期	3,832	19.3	1,737	20.8	5,569	19.7
不詳	285	1.4	157	1.9	442	1.6
観血的治療						
有	15,994	80.4	6,661	79.6	22,655	80.2
原発巣・治癒切除	14,417	72.5	5,973	71.4	20,390	72.2
原発巣・非治癒切除	1,101	5.5	481	5.7	1,582	5.6
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	476	2.4	207	2.5	683	2.4
無	3,896	19.6	1,705	20.4	5,601	19.8
発見経緯						
がん検診	2,354	11.8	1,001	12.0	3,355	11.9
健康診断・人間ドック	2,820	14.2	834	10.0	3,654	12.9
他疾患経過観察中	5,141	25.8	1,732	20.7	6,873	24.3
その他・不明	9,575	48.1	4,799	57.4	14,374	50.9

(3)10年生存率

男女別にみた10年相対生存率はほぼ同様であった。年代別にみると、70歳以上では実測生存率と相対生存率の乖離が大きく、がん以外による死亡も無視できないと考えられる。また、観血治療を受けた者では、相対生存率は全体で80%以上であった。

表 3-2-2 属性別 10 年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	47.7	68.0	67.0	69.0	53.6	67.2	65.8	68.5	49.5	67.8	66.9	68.6
拠点病院等	47.9	68.2	67.1	69.2	53.7	67.4	66.0	68.7	49.6	67.9	67.1	68.7
都道府県推薦病院	40.3	58.2	49.8	66.4	39.8	50.6	38.8	62.1	40.2	55.9	49.0	62.7
年齢												
15-39歳	62.9	63.7	56.0	70.4	56.9	57.2	50.2	63.7	59.6	60.2	55.0	64.9
40歳代	72.7	75.1	71.4	78.4	68.7	69.8	65.4	73.8	71.0	72.9	70.1	75.5
50歳代	64.2	69.8	67.9	71.6	66.4	68.8	66.0	71.4	64.8	69.5	68.0	71.0
60歳代	59.4	71.4	69.9	72.9	65.2	70.5	68.1	72.7	60.8	71.2	69.9	72.4
70歳代	39.8	65.6	63.7	67.4	52.3	67.5	65.0	69.9	43.2	66.1	64.6	67.6
80歳以上	15.9	59.9	54.5	65.4	25.9	60.3	55.2	65.4	19.7	60.1	56.4	64.0
UICC TNM 総合ステージ												
I期	64.1	91.7	90.5	92.9	74.3	93.7	92.1	95.2	67.0	92.3	91.3	93.2
II期	43.9	62.3	58.7	65.9	51.3	63.3	58.6	67.9	46.2	62.6	59.7	65.5
III期	27.9	38.0	35.0	41.0	33.0	40.2	36.1	44.3	29.5	38.7	36.3	41.2
IV期	5.6	7.6	6.6	8.6	6.8	8.1	6.7	9.6	6.0	7.7	6.9	8.6
不詳	12.6	20.7	14.7	27.9	9.4	13.4	7.7	21.2	11.4	18.1	13.6	23.3
観血的治療												
有	57.2	81.1	80.0	82.2	64.7	80.6	79.1	82.0	59.4	81.0	80.1	81.8
原発巣・治癒切除	60.7	86.0	84.8	87.1	69.2	86.0	84.5	87.4	63.2	86.0	85.1	86.9
原発巣・非治癒切除	18.3	26.2	23.0	29.6	17.8	22.7	18.4	27.3	18.1	25.1	22.5	27.8
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	40.8	58.2	51.9	64.6	41.3	57.0	47.4	66.3	40.9	57.9	52.6	63.1
無	8.3	12.6	11.3	14.0	9.3	12.9	11.0	14.9	8.6	12.7	11.6	13.8



3. 大腸癌

	対象数	施設数	死亡数	平均年齢	生存状況把握割合 (%)
2007	22,495	181	10,869	68.1	96.1
I 期	5,920	181	1,648	67.8	95.6
II 期	5,750	180	2,229	69.3	95.7
III 期	6,045	181	2,801	67.6	96.4
IV 期	4,433	181	3,902	66.9	97.1

(1) 生存状況把握割合

集計対象 22,495 例のうち、10 年以内に死亡していた者は 10,869 例、打ち切りが 869 例で、全体として生存状況把握割合は 96.1%であった。

(2) 対象者の属性

対象者の属性を表 3-3①-1 に示す。性別にみると、女性より男性がやや多く男性が約 59%を占めた。診断時の

年齢は、男女ともに 70 歳代が最も多く、次いで 60 歳代が多くなっていた。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、全体では I、II、III 期ともに 25%前後にばらついていた。87.5%の対象者がなんらかの観血的治療を受けており、75.9%が原発巣・治癒切除例であった。発見経緯としては、他疾患経過観察中が 20.0%、がん検診が 11.6%、健康診断・人間ドックが 8.3%であった。

表 3-3①-1 対象者の属性

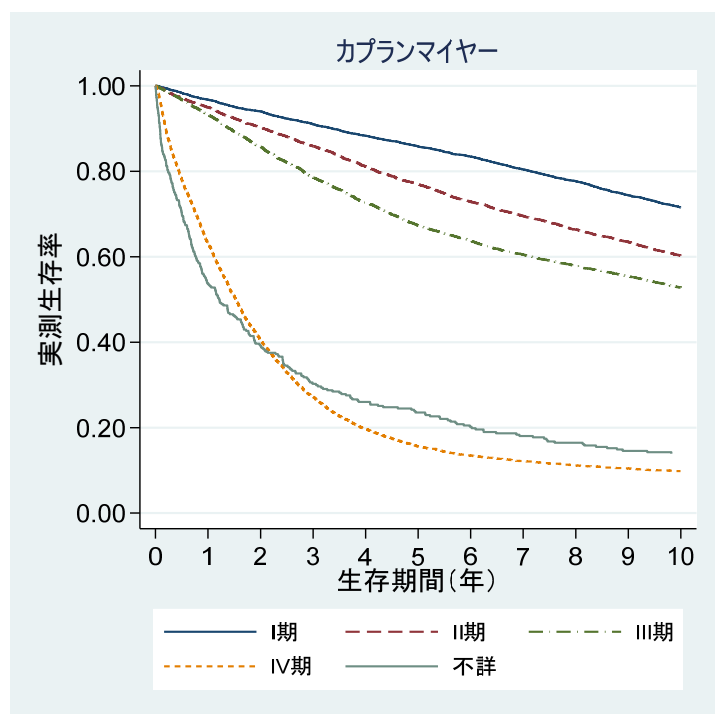
	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	13,201	100.0	9,294	100.0	22,495	100.0
拠点病院等	12,909	97.8	9,109	98.0	22,018	97.9
都道府県推薦病院	292	2.2	185	2.0	477	2.1
年齢						
平均年齢 (SD)	67.7	(SD:10.8)	68.7	(SD:12.3)	68.1	(SD:11.4)
0-14 歳	(1-3)		0	0.0	(1-3)	
15-39 歳	187	1.4	181	1.9	368	1.6
40 歳代	534	4.0	442	4.8	976	4.3
50 歳代	2,258	17.1	1,540	16.6	3,798	16.9
60 歳代	4,026	30.5	2,391	25.7	6,417	28.5
70 歳代	4,492	34.0	2,894	31.1	7,386	32.8
80 歳以上	1,703	12.9	1,846	19.9	3,549	15.8
UICC TNM 分類総合ステージ						
I 期	3,653	27.7	2,267	24.4	5,920	26.3
II 期	3,431	26.0	2,319	25.0	5,750	25.6
III 期	3,359	25.4	2,686	28.9	6,045	26.9
IV 期	2,561	19.4	1,872	20.1	4,433	19.7
不詳	197	1.5	150	1.6	347	1.5
観血的治療						
有	11,549	87.5	8,143	87.6	19,692	87.5
原発巣・治癒切除	10,031	76.0	7,041	75.8	17,072	75.9
原発巣・非治癒切除	1,159	8.8	874	9.4	2,033	9.0
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	359	2.7	228	2.5	587	2.6
無	1,652	12.5	1,151	12.4	2,803	12.5
発見経緯						
がん検診	1,525	11.6	1,081	11.6	2,606	11.6
健康診断・人間ドック	1,216	9.2	652	7.0	1,868	8.3
他疾患経過観察中	2,790	21.1	1,716	18.5	4,506	20.0
その他・不明	7,670	58.1	5,845	62.9	13,515	60.1

(3)10年生存率

10年生存率を表3-3①-2に示す。10年相対生存率は、男女ともほぼ同様であり全体では約68%であった。他の部位と同様、年代が高くなるほど、実測生存率と相対生存率の差が大きくなるが、これは高齢者ほど他疾患で亡くなる例が少ないためと考えられる。UICC TNM 分類総合ステージ別に相対生存率をみると、I期では約96%、II期では約84%であった。観血的治療を受けたものは、相対生存率は75.5%であり、原発巣・治癒切除例においては82.5%であった。

表3-3①-2 属性別10年生存率

	男性			女性			全体		
	実測	相対	95%信頼区間	実測	相対	95%信頼区間	実測	相対	95%信頼区間
全体	48.3	68.1	66.9 69.3	54.2	68.3	67.0 69.6	50.7	68.2	67.3 69.1
拠点病院等	48.5	68.3	67.0 69.5	54.3	68.3	67.0 69.6	50.9	68.3	67.4 69.2
都道府県推薦病院	40.2	59.1	50.7 67.3	50.0	66.4	56.4 75.7	44.0	62.0	55.6 68.3
年齢									
15-39歳	64.1	64.9	57.3 71.6	63.4	63.8	56.2 70.6	63.7	64.4	59.0 69.2
40歳代	61.1	63.1	58.6 67.2	65.0	66.1	61.3 70.4	62.9	64.5	61.2 67.5
50歳代	62.8	68.3	66.1 70.5	65.9	68.2	65.7 70.6	64.1	68.3	66.6 69.9
60歳代	57.3	68.9	67.0 70.7	65.3	70.6	68.5 72.7	60.3	69.5	68.1 70.9
70歳代	42.3	69.4	67.0 71.8	53.8	69.2	66.8 71.5	46.8	69.3	67.6 71.0
80歳以上	16.9	67.4	60.2 74.9	26.3	66.9	61.7 72.3	21.8	67.2	62.9 71.6
UICC TNM 総合ステージ									
I期	67.2	95.1	92.9 97.2	78.5	97.4	95.2 99.4	71.5	96.0	94.4 97.5
II期	57.6	83.9	81.4 86.3	64.3	84.2	81.6 86.8	60.3	84.1	82.3 85.8
III期	48.9	67.3	64.9 69.6	57.6	72.1	69.7 74.4	52.8	69.5	67.8 71.1
IV期	9.9	12.7	11.3 14.3	9.9	11.5	9.9 13.1	9.9	12.2	11.1 13.3
不詳	14.8	21.8	14.9 30.0	13.0	18.9	11.8 27.7	14.0	20.5	15.4 26.4
観血的治療									
有	53.6	75.6	74.3 76.9	60.0	75.3	73.9 76.6	56.2	75.5	74.5 76.4
原発巣・治癒切除	58.1	82.1	80.7 83.5	66.0	82.9	81.5 84.3	61.4	82.5	81.5 83.4
原発巣・非治癒切除	17.6	23.4	20.5 26.5	16.5	19.9	17.0 23.0	17.1	21.9	19.8 24.1
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	41.8	60.0	52.6 67.3	40.7	52.9	44.4 61.3	41.4	57.2	51.6 62.7
無	10.5	14.6	12.6 16.8	12.3	16.5	14.0 19.2	11.2	15.4	13.8 17.1



結腸癌

	対象数	施設数	死亡数	平均年齢	生存状況把握割合 (%)
2007	14,350	181	6,923	69.2	95.9
I 期	3,721	181	1,055	68.8	95.8
II 期	3,842	180	1,466	70.4	95.2
III 期	3,656	181	1,663	68.9	96.0
IV 期	2,898	180	2,544	68.0	96.9

(1) 生存状況把握割合

対象数は、14,350 例、うち死亡数が 6,923 例、打ち切り数が 588 例で生存状況把握割合は 95.9%であった。

(2) 対象者の属性

男性が約 55%、女性が約 45%を占め、平均年齢は、69.2 歳であった。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、I～III 期が約 25%前後であった。約 88%になんらかの観血的治療が実施されていた。

表 3-3②-1 結腸 対象者の属性

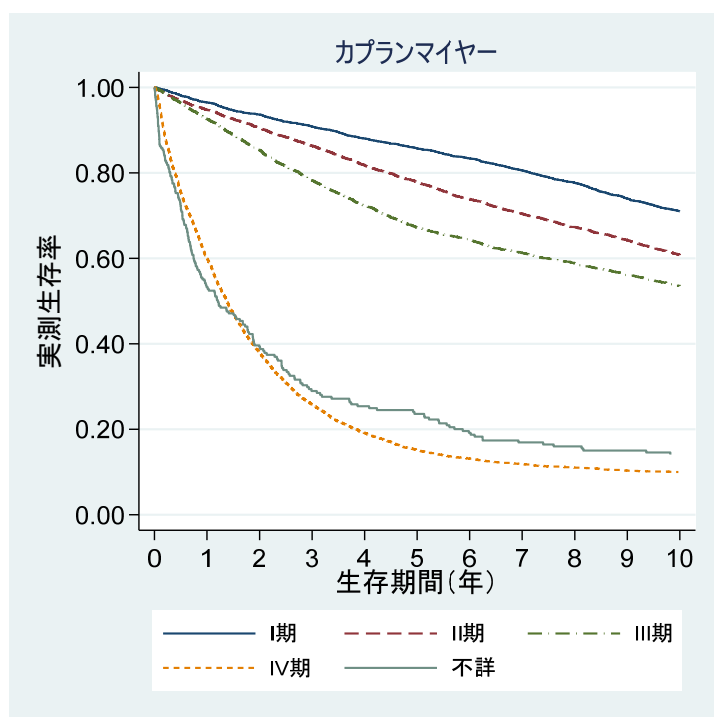
	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	7,922	100.0	6,428	100.0	14,350	100.0
拠点病院等	7,756	97.9	6,288	97.8	14,044	97.9
都道府県推薦病院	166	2.1	140	2.2	306	2.1
年齢						
平均年齢 (SD)	68.9	(SD:10.5)	69.6	(SD:12.1)	69.2	(SD:11.2)
0-14 歳	(1-3)		0	0.0	(1-3)	
15-39 歳	97	1.2	111	1.7	208	1.4
40 歳代	251	3.2	253	3.9	504	3.5
50 歳代	1,120	14.1	981	15.3	2,101	14.6
60 歳代	2,351	29.7	1,578	24.5	3,929	27.4
70 歳代	2,929	37.0	2,119	33.0	5,048	35.2
80 歳以上	1,173	14.8	1,386	21.6	2,559	17.8
UICC TNM 分類総合ステージ						
I 期	2,235	28.2	1,486	23.1	3,721	25.9
II 期	2,159	27.3	1,683	26.2	3,842	26.8
III 期	1,862	23.5	1,794	27.9	3,656	25.5
IV 期	1,537	19.4	1,361	21.2	2,898	20.2
不詳	129	1.6	104	1.6	233	1.6
観血的治療						
有	6,968	88.0	5,631	87.6	12,599	87.8
原発巣・治癒切除	6,040	76.2	4,812	74.9	10,852	75.6
原発巣・非治癒切除	702	8.9	659	10.3	1,361	9.5
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	226	2.9	160	2.5	386	2.7
無	954	12.0	797	12.4	1,751	12.2
発見経緯						
がん検診	965	12.2	786	12.2	1,751	12.2
健康診断・人間ドック	764	9.6	476	7.4	1,240	8.6
他疾患経過観察中	1,949	24.6	1,360	21.2	3,309	23.1
その他・不明	4,244	53.6	3,806	59.2	8,050	56.1

(3)10年生存率

表 3-3②-2 結腸に、属性別 10 年実測生存率と相対生存率を示す。年齢が高くなるほど実測生存率と相対生存率の差に乖離が大きくなる傾向にあった。これは年齢が高いほどがん以外の死因で亡くなる確率が高くなることが影響していると考えられる。UICC TNM 分類総合ステージ別に見ると、I 期では相対生存率は 90%以上であった。

表 3-3②-2 結腸 属性別 10 年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	48.5	71.0	69.4	72.6	53.5	68.8	67.2	70.4	50.7	70.0	68.8	71.1
拠点病院等	48.6	71.0	69.3	72.6	53.5	68.8	67.2	70.4	50.8	70.0	68.8	71.1
都道府県推薦病院	46.6	70.4	58.5	81.7	50.7	68.7	57.0	79.5	48.5	69.7	61.3	77.6
年齢												
15-39 歳	69.5	70.4	59.7	78.9	60.1	60.5	50.6	69.1	64.4	65.0	57.9	71.3
40 歳代	61.2	63.2	56.6	69.2	65.3	66.4	60.0	72.1	63.3	64.8	60.3	69.0
50 歳代	64.9	70.7	67.5	73.6	65.1	67.4	64.2	70.4	65.0	69.1	66.9	71.3
60 歳代	59.3	71.6	69.2	74.0	65.9	71.2	68.6	73.7	62.0	71.4	69.6	73.2
70 歳代	43.9	72.7	69.7	75.7	53.4	68.8	65.9	71.5	47.9	71.0	68.9	73.1
80 歳以上	17.2	69.6	60.8	79.0	27.8	71.4	65.2	77.8	23.0	70.9	65.8	76.2
UICC TNM 総合ステージ												
I 期	66.8	97.2	94.3	100.0	77.4	97.4	94.6	100.0	71.0	97.2	95.2	99.2
II 期	57.6	87.0	83.8	90.2	64.9	86.9	83.7	89.9	60.8	87.0	84.7	89.2
III 期	49.1	70.7	67.4	74.0	58.2	74.5	71.5	77.4	53.5	72.6	70.4	74.8
IV 期	10.7	14.3	12.3	16.6	9.3	10.8	9.1	12.8	10.0	12.6	11.3	14.1
不詳	12.1	17.3	10.1	26.5	16.7	24.4	14.9	35.9	14.2	20.5	14.4	27.6
観血的治療												
有	53.6	78.4	76.7	80.1	59.1	75.7	74.0	77.3	56.1	77.2	76.0	78.4
原発巣・治癒切除	58.2	85.3	83.4	87.1	65.7	84.2	82.4	85.9	61.5	84.8	83.5	86.1
原発巣・非治癒切除	16.3	22.6	18.9	26.6	15.9	19.5	16.1	23.0	16.2	21.1	18.5	23.7
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	44.3	66.1	56.2	75.7	37.5	50.6	40.3	60.8	41.6	59.5	52.4	66.6
無	10.8	15.7	12.9	18.8	12.7	17.9	14.7	21.5	11.7	16.7	14.6	19.0



直腸癌

	対象数	施設数	死亡数	平均年齢	生存状況把握割合 (%)
2007	8,145	181	3,946	66.1	96.6
I 期	2,199	179	593	66.2	95.4
II 期	1,908	179	763	67.2	96.5
III 期	2,389	179	1,138	65.5	97.1
IV 期	1,535	178	1,358	64.7	97.5

(1) 生存状況把握割合

対象数は、8,145 例、うち死亡数が 3,946 例、打ち切り数が 281 例で生存状況把握割合は 96.6%であった。

(2) 対象者の属性

男性が約 65%、女性が約 35%を占め、平均年齢は、66.1 歳であった。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、III 期が約 29%であった。約 87%になんらかの観血的治療が実施されていた。

表 3-3③-1 直腸 対象者の属性

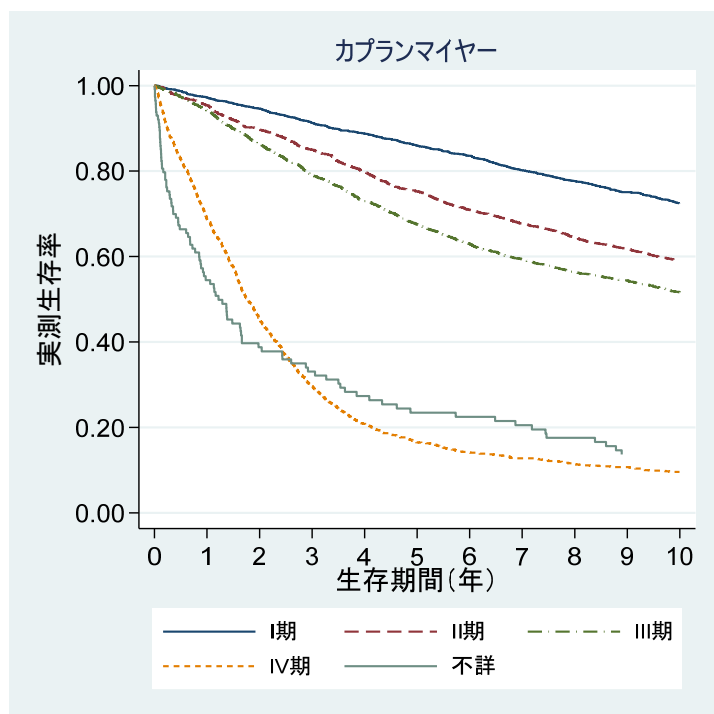
	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	5,279	100.0	2,866	100.0	8,145	100.0
拠点病院等	5,153	97.6	2,821	98.4	7,974	97.9
都道府県推薦病院	126	2.4	45	1.6	171	2.1
年齢						
平均年齢 (SD)	65.8	(SD:11.0)	66.6	(SD:12.4)	66.1	(SD:11.5)
15-39 歳	90	1.7	70	2.4	160	2.0
40 歳代	283	5.4	189	6.6	472	5.8
50 歳代	1,138	21.6	559	19.5	1,697	20.8
60 歳代	1,675	31.7	813	28.4	2,488	30.5
70 歳代	1,563	29.6	775	27.0	2,338	28.7
80 歳以上	530	10.0	460	16.1	990	12.2
UICC TNM 分類総合ステージ						
I 期	1,418	26.9	781	27.3	2,199	27.0
II 期	1,272	24.1	636	22.2	1,908	23.4
III 期	1,497	28.4	892	31.1	2,389	29.3
IV 期	1,024	19.4	511	17.8	1,535	18.8
不詳	68	1.3	46	1.6	114	1.4
観血的治療						
有	4,581	86.8	2,512	87.6	7,093	87.1
原発巣・治癒切除	3,991	75.6	2,229	77.8	6,220	76.4
原発巣・非治癒切除	457	8.7	215	7.5	672	8.3
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	133	2.5	68	2.4	201	2.5
無	698	13.2	354	12.4	1,052	12.9
発見経緯						
がん検診	560	10.6	295	10.3	855	10.5
健康診断・人間ドック	452	8.6	176	6.1	628	7.7
他疾患経過観察中	841	15.9	356	12.4	1,197	14.7
その他・不明	3,426	64.9	2,039	71.1	5,465	67.1

(3)10年生存率

表 3-3③-2 直腸に、属性別 10 年実測生存率と相対生存率を示す。70 歳以上では実測生存率と相対生存率の差に乖離が大きくなる傾向にあった。これは年齢が高いほどがん以外の死因で亡くなる確率が高くなることが影響していると考えられる。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、全体では I 期の相対性生存率は 90%以上であった。

表 3-3③-2 直腸 属性別 10 年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	47.9	63.9	62.1	65.7	55.8	67.3	65.1	69.5	50.7	65.2	63.8	66.6
拠点病院等	48.3	64.4	62.5	66.2	56.0	67.5	65.2	69.7	51.0	65.5	64.1	66.9
都道府県推薦病院	32.0	44.9	33.7	56.5	47.7	59.5	40.5	76.6	36.0	48.8	39.1	58.6
年齢												
15-39 歳	58.4	59.2	47.9	68.9	68.7	69.2	56.5	78.9	62.9	63.5	55.2	70.7
40 歳代	61.0	62.9	56.7	68.6	64.5	65.6	58.2	72.1	62.5	64.0	59.4	68.4
50 歳代	60.8	66.0	62.8	69.0	67.3	69.6	65.4	73.5	62.9	67.2	64.7	69.7
60 歳代	54.3	65.0	62.1	67.9	64.3	69.5	65.8	73.0	57.6	66.5	64.3	68.8
70 歳代	39.2	63.4	59.4	67.3	54.9	70.3	65.7	74.7	44.4	65.8	62.7	68.7
80 歳以上	16.3	62.4	50.5	75.3	21.6	53.6	44.2	63.5	18.7	57.6	50.1	65.5
UICC TNM 総合ステージ												
I 期	67.9	91.9	88.4	95.1	80.6	97.3	93.6	100.0	72.4	93.8	91.3	96.2
II 期	57.5	78.9	75.0	82.5	62.8	77.4	72.6	82.0	59.3	78.4	75.4	81.3
III 期	48.7	63.3	59.9	66.6	56.6	67.5	63.5	71.3	51.6	64.9	62.4	67.5
IV 期	8.7	10.6	8.6	12.9	11.5	13.1	10.1	16.5	9.6	11.5	9.7	13.3
不詳	20.0	31.2	17.5	47.8	4.6	6.6	1.2	19.6	13.6	20.7	12.0	31.7
観血的治療												
有	53.6	71.5	69.5	73.4	61.9	74.5	72.2	76.8	56.5	72.6	71.1	74.1
原発巣・治癒切除	57.9	77.5	75.4	79.6	66.5	80.2	77.7	82.5	61.0	78.5	76.9	80.1
原発巣・非治癒切除	19.5	24.8	20.3	29.6	18.1	21.2	15.5	27.7	19.0	23.6	20.0	27.5
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	37.6	50.2	39.2	61.2	48.0	58.1	43.2	71.9	41.1	52.9	44.0	61.6
無	10.1	13.3	10.5	16.5	11.4	13.8	10.0	18.2	10.5	13.4	11.1	16.0



4. 肝細胞癌と肝内胆管癌

肝細胞癌

	対象数	施設数	死亡数	平均年齢	生存状況把握割合 (%)
2007	8,561	180	7,046	69.0	96.4
I期	3,255	176	2,428	69.6	96.5
II期	2,711	175	2,240	69.1	96.3
III期	1,829	172	1,672	68.3	97.0
IV期	534	151	501	66.6	94.9

(1) 生存状況把握割合

対象者は、8,561例で、そのうち10年以内に死亡していたのは7,046例、打ち切りが304例であった。全体として、生存状況把握割合は96.4%であった。

男性が約71%を占めた。年代をみると、70歳代が最も多く男性で約40%、女性は約29%を占めた。UICC TNM総合ステージ別にみると、全体でI期が約38%、II期が約32%、III期が約21%となっていた。22.5%に観血的治療が実施されていた。発見経緯としては、他疾患経過観察中が53.0%を占めた。

(2) 対象者の属性

対象者の属性を表3-4①-1に示す。性別にみると、

表3-4①-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	6,051	100.0	2,510	100.0	8,561	100.0
拠点病院等	5,938	98.1	2,473	98.5	8,411	98.2
都道府県推薦病院	113	1.9	37	1.5	150	1.8
年齢						
平均年齢 (SD)	67.9	(SD:9.8)	71.4	(SD:8.9)	69.0	(SD:9.7)
0-14歳	(1-3)		0	0.0	(1-3)	
15-39歳	38	0.6	15	0.6	53	0.6
40歳代	180	3.0	35	1.4	215	2.5
50歳代	1,014	16.8	195	7.8	1,209	14.1
60歳代	1,834	30.3	619	24.7	2,453	28.7
70歳代	2,382	39.4	1,250	49.8	3,632	42.4
80歳以上	600	9.9	396	15.8	996	11.6
UICC TNM分類総合ステージ						
I期	2,110	34.9	1,145	45.6	3,255	38.0
II期	1,916	31.7	795	31.7	2,711	31.7
III期	1,443	23.8	386	15.4	1,829	21.4
IV期	412	6.8	122	4.9	534	6.2
不詳	170	2.8	62	2.5	232	2.7
取扱い規約治療前ステージ						
I期	1,288	21.3	714	28.4	2,002	23.4
II期	2,013	33.3	924	36.8	2,937	34.3
III期	1,392	23.0	472	18.8	1,864	21.8
IV期	1,023	16.9	289	11.5	1,312	15.3
不詳	331	5.5	108	4.3	439	5.1
観血的治療						
有	1,470	24.3	458	18.2	1,928	22.5
原発巣・治癒切除	1,312	21.7	403	16.1	1,715	20.0
原発巣・非治癒切除	90	1.5	25	1.0	115	1.3
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	68	1.1	30	1.2	98	1.1
無	4,581	75.7	2,052	81.8	6,633	77.5
発見経緯						
がん検診	75	1.2	31	1.2	106	1.2
健康診断・人間ドック	225	3.7	37	1.5	262	3.1
他疾患経過観察中	3,098	51.2	1,438	57.3	4,536	53.0
その他・不明	2,653	43.8	1,004	40.0	3,657	42.7

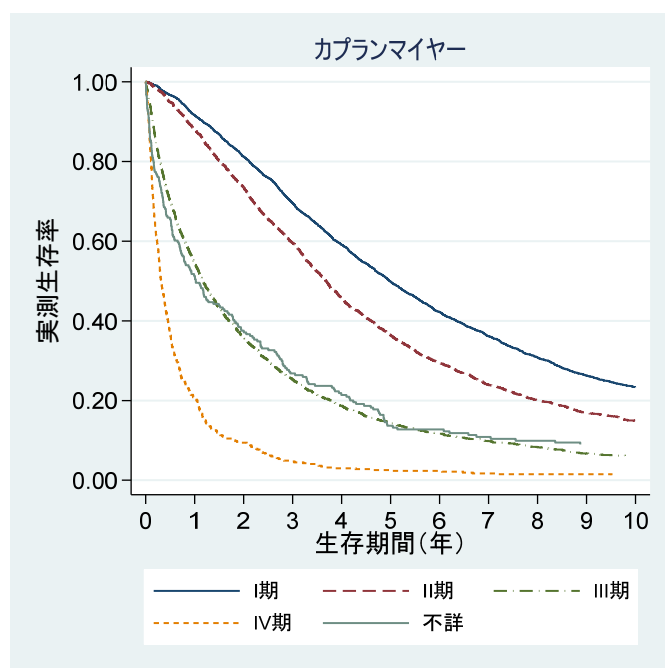
取扱い規約治療前ステージが0期の者を若干名含む

(3)10年生存率

10年生存率を表3-4①-2に示す。全体として、相対生存率は男性が21.8%、女性が17.6%であった。他の部位と比較して、80歳以上を除き年代による実測生存率と相対生存率の差はやや小さくなっており、予後があまり良くないことを示唆している。UICC TNM分類別にみると、I期では相対生存率は全体で約32%である。観血的治療を受けたものの割合は約2割であるが、観血的治療を受けたものの相対生存率は約43%であった。

表3-4①-2 属性別10年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	15.7	21.8	20.6	23.2	14.3	17.6	15.9	19.4	15.3	20.5	19.5	21.6
拠点病院等	15.7	21.9	20.6	23.2	14.3	17.6	15.9	19.4	15.3	20.5	19.5	21.6
都道府県推薦病院	15.0	20.8	12.7	30.7	14.3	16.8	6.2	32.5	14.9	19.8	12.9	28.0
年齢												
15-39歳	27.6	27.9	14.6	43.0	-	-			36.9	37.3	24.3	50.3
40歳代	33.7	34.7	27.6	41.9	28.0	28.5	14.6	44.2	32.7	33.7	27.3	40.2
50歳代	21.9	23.8	21.0	26.7	23.7	24.5	18.5	31.1	22.2	23.9	21.4	26.6
60歳代	18.8	22.6	20.4	24.8	20.8	22.5	19.1	26.1	19.3	22.5	20.7	24.4
70歳代	12.0	19.5	17.4	21.7	11.5	14.6	12.3	17.0	11.8	17.6	16.0	19.2
80歳以上	4.7	16.4	10.9	23.3	4.6	9.9	5.9	15.5	4.6	13.5	9.9	17.9
UICC TNM 総合ステージ												
I期	25.7	36.4	33.7	39.1	19.0	23.4	20.6	26.3	23.4	31.6	29.6	33.6
II期	15.6	21.3	19.1	23.7	13.1	16.1	13.2	19.2	14.9	19.8	18.0	21.6
III期	6.0	8.2	6.6	10.0	6.5	7.9	5.2	11.4	6.1	8.1	6.7	9.7
IV期	1.7	2.5	1.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	2.0	0.8	4.1
不詳	6.2	8.4	4.2	14.6	16.1	19.8	10.2	32.2	9.0	11.8	7.5	17.4
取扱い規約治療前ステージ												
I期	26.9	37.3	33.9	40.8	18.9	23.0	19.5	26.6	24.1	31.9	29.4	34.5
II期	19.9	28.2	25.7	30.7	17.8	22.0	18.9	25.2	19.3	26.1	24.2	28.2
III期	9.0	12.2	10.2	14.4	7.1	9.2	6.4	12.6	8.5	11.4	9.7	13.2
IV期	2.8	3.7	2.5	5.3	2.2	2.5	1.0	5.3	2.6	3.4	2.4	4.8
不詳	7.6	10.6	5.8	17.2	15.0	19.1	9.4	32.0	9.6	13.0	8.4	18.8
観血的治療												
有	33.1	44.2	41.0	47.5	34.8	41.0	35.8	46.2	33.5	43.4	40.7	46.2
原発巣・治癒切除	34.5	45.9	42.5	49.4	37.2	43.8	38.2	49.5	35.1	45.4	42.5	48.4
原発巣・非治癒切除	15.3	21.0	11.7	32.7	-	-			14.8	19.8	11.7	29.9
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	29.8	41.5	26.9	57.1	20.0	23.6	9.6	42.1	26.9	35.9	24.7	48.1
無	10.0	14.3	13.0	15.6	9.6	12.1	10.5	13.8	9.9	13.5	12.5	14.6



肝内胆管癌

	対象数	施設数	死亡数	平均年齢	生存状況把握割合 (%)
2007	970	170	850	69.6	96.5
I 期	102	62	74	69.8	98.0
II 期	127	81	91	70.6	96.9
III 期	359	143	318	69.4	95.0
IV 期	321	122	310	68.3	97.5

(1) 生存状況把握割合

対象者は、970 例で、そのうち 10 年以内に死亡していたのは 850 例、打ち切りが 34 例であった。全体として、生存状況把握割合は 96.5%であった。

男性が約 60%を占めた。年代をみると、70 歳代が最も多く男性で約 37%、女性は約 42%を占めた。UICC TNM 総合ステージ別にみると、全体で I 期が約 11%、II 期が約 13%、III 期が約 37%、IV 期が約 33%であった。30.2%に観血的治療が実施されていた。発見経緯としては、他疾患経過観察中が約 32%を占めた。

(2) 対象者の属性

対象者の属性を表 3-4②-1 に示す。性別にみると、

表 3-4②-1 対象者の属性

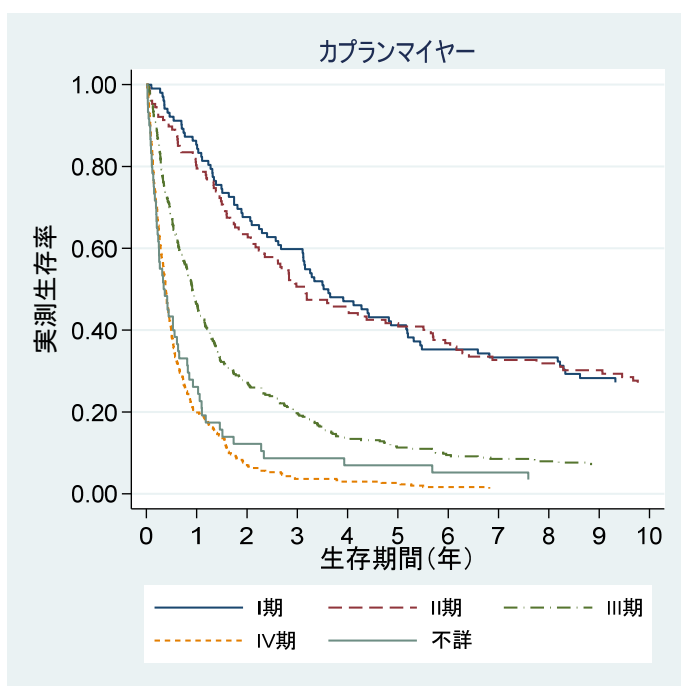
	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	578	100.0	392	100.0	970	100.0
拠点病院等	573	99.1	383	97.7	956	98.6
都道府県推薦病院	(4-6)		(7-9)		14	1.4
年齢						
平均年齢 (SD)	68.8	(SD:10.1)	70.6	(SD:9.9)	69.6	(SD:10.1)
15-39 歳	(1-3)		0	0.0	(1-3)	
40 歳代	16	2.8	10	2.6	26	2.7
50 歳代	95	16.4	46	11.7	141	14.5
60 歳代	169	29.2	106	27.0	275	28.4
70 歳代	211	36.5	163	41.6	374	38.6
80 歳以上	84	14.5	67	17.1	151	15.6
UICC TNM 分類総合ステージ						
I 期	59	10.2	43	11.0	102	10.5
II 期	76	13.1	51	13.0	127	13.1
III 期	198	34.3	161	41.1	359	37.0
IV 期	209	36.2	112	28.6	321	33.1
不詳	36	6.2	25	6.4	61	6.3
取り扱い規約治療前ステージ						
I 期	47	8.1	25	6.4	72	7.4
II 期	73	12.6	63	16.1	136	14.0
III 期	75	13.0	75	19.1	150	15.5
IV 期	322	55.7	184	46.9	506	52.2
不詳	61	10.6	45	11.5	106	10.9
観血的治療						
有	170	29.4	123	31.4	293	30.2
原発巣・治癒切除	146	25.3	93	23.7	239	24.6
原発巣・非治癒切除	17	2.9	22	5.6	39	4.0
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	(7-9)		(7-9)		15	1.5
無	408	70.6	269	68.6	677	69.8
発見経緯						
がん検診	16	2.8	(4-6)		21	2.2
健康診断・人間ドック	38	6.6	30	7.7	68	7.0
他疾患経過観察中	203	35.1	110	28.1	313	32.3
その他・不明	321	55.5	247	63.0	568	58.6

(3)10年生存率

10年生存率を表3-4②-2に示す。全体として、相対生存率は全体で約13%であった。集計対象数が限られるため生存率の解釈には留意が必要である。UICC TNM分類別にみると、I期では相対生存率は全体で約36%である。観血的治療を受けたものの割合は約3割であるが、観血的治療を受けたものの相対生存率は約34%であった。

表3-4②-2 属性別10年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	7.9	10.7	7.9	14.0	12.9	15.5	11.7	20.0	9.8	12.7	10.3	15.3
拠点病院等	7.7	10.6	7.8	13.9	12.8	15.5	11.6	20.0	9.7	12.6	10.2	15.2
都道府県推薦病院	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年齢												
40歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
50歳代	16.1	17.6	10.4	26.5	26.6	27.6	15.3	41.5	19.5	20.9	14.3	28.3
60歳代	8.5	10.2	5.9	16.1	17.9	19.4	12.0	28.1	12.1	13.7	9.6	18.6
70歳代	5.6	9.4	5.0	15.6	8.4	10.6	5.9	16.9	6.8	9.9	6.5	14.1
80歳以上	0.0	0.0	0.0	0.0	7.5	16.6	5.4	36.2	3.2	8.2	2.7	18.9
UICC TNM 総合ステージ												
I期	25.4	33.9	20.3	49.3	30.0	37.7	21.5	55.2	27.3	35.5	24.8	47.0
II期	19.7	29.5	17.5	43.7	38.2	44.5	28.7	60.2	26.8	35.6	25.7	46.3
III期	5.5	7.1	3.6	12.2	9.3	10.9	6.2	17.3	7.2	8.8	5.8	12.7
IV期	1.8	2.1	0.6	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	1.4	0.4	3.7
不詳	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	3.6	5.4	1.0	16.3
取扱い規約治療前ステージ												
I期	34.0	46.1	28.5	64.3	27.7	36.3	15.2	61.0	32.0	42.9	28.8	57.6
II期	19.2	27.6	16.0	41.6	29.4	33.5	21.1	46.8	23.8	30.4	21.7	40.0
III期	11.3	16.0	7.5	28.1	15.9	19.2	10.3	30.6	13.6	17.6	11.1	25.7
IV期	1.5	1.9	0.7	4.3	2.1	2.7	0.8	6.9	1.7	2.1	1.0	4.1
不詳	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	9.2	1.6	26.1	3.0	3.9	0.8	12.2
観血的治療												
有	22.5	30.5	22.4	39.4	32.1	37.5	27.9	47.4	26.5	33.5	27.2	40.0
原発巣・治癒切除	24.0	32.4	23.6	42.1	38.2	43.9	32.4	55.2	29.4	37.0	29.8	44.4
原発巣・非治癒切除	-	-	-	-	-	-	-	-	7.1	8.1	1.7	21.6
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無	1.5	2.0	0.8	4.3	3.5	4.7	2.2	8.7	2.3	3.1	1.8	5.0



5. 小細胞肺癌と非小細胞肺癌

小細胞肺癌

	対象数	施設数	死亡数	平均年齢	生存状況把握割合 (%)
2007	2,168	175	1,978	69.3	97.8
I 期	162	96	115	72.4	98.1
II 期	103	70	85	70.3	98.1
III 期	858	160	769	68.7	97.6
IV 期	1,025	165	992	69.1	98.0

(1) 生存状況把握割合

対象者は、2,168 例で、そのうち 10 年以内に死亡していた者は、1,978 例、打ち切りが 48 例で、全体として生存状況把握割合は 7.8%であった。

(2) 対象者の属性

対象者の属性を表 3-5①-1 に示す。対象者は、男性が 84.3%を占め、70 歳代が最も多かった。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、全体として I V 期

が約 47%、次いで III 期が約 40%であった。病期分布に男女差はほとんどなく、若干女性で III 期の割合が男性より多かった。観血的治療実施を受けた者の割合は、非小細胞肺癌と比較して低く、約 8%であった。発見経緯をみると、他疾患経過観察中が約 27%であった。

表 3-5①-1 対象者の属性

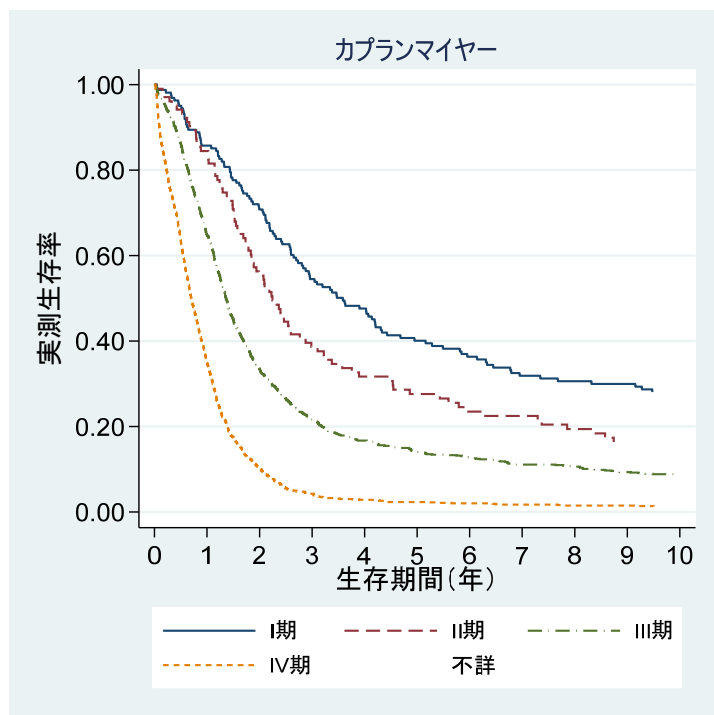
	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	1,827	100.0	341	100.0	2,168	100.0
拠点病院等	1,795	98.2	336	98.5	2,131	98.3
都道府県推薦病院	32	1.8	(4-6)		37	1.7
年齢						
平均年齢 (SD)	69.2	(SD:9.0)	69.5	(SD:9.8)	69.3	(SD:9.2)
15-39 歳	(1-3)		(1-3)		(4-6)	
40 歳代	31	1.7	6	1.8	37	1.7
50 歳代	245	13.4	44	12.9	289	13.3
60 歳代	608	33.3	105	30.8	713	32.9
70 歳代	718	39.3	132	38.7	850	39.2
80 歳以上	222	12.2	51	15.0	273	12.6
UICC TNM 分類総合ステージ						
I 期	139	7.6	23	6.7	162	7.5
II 期	88	4.8	15	4.4	103	4.8
III 期	708	38.8	150	44.0	858	39.6
IV 期	874	47.8	151	44.3	1,025	47.3
不詳	18	1.0	(1-3)		20	0.9
観血的治療						
有	149	8.2	22	6.5	171	7.9
原発巣・治癒切除	121	6.6	20	5.9	141	6.5
原発巣・非治癒切除	14	0.8	(1-3)		15	0.7
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	14	0.8	(1-3)		15	0.7
無	1,678	91.8	319	93.5	1,997	92.1
発見経緯						
がん検診	71	3.9	15	4.4	86	4.0
健康診断・人間ドック	174	9.5	14	4.1	188	8.7
他疾患経過観察中	472	25.8	102	29.9	574	26.5
その他・不明	1,110	60.8	210	61.6	1,320	60.9

(3)10年生存率

10年生存率を表3-5①-2に示す。全体での10年相対生存率は、IV期が半数近くを占めることから低く約10%であった。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、I期では相対生存率が42.0%であった。観血的治療を受けた者の割合は少ないが、相対生存率は37.7%であった。

表 3-5①-2 属性別 10年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	6.8	9.3	7.8	11.0	8.6	10.7	7.3	14.8	7.1	9.5	8.1	11.0
拠点病院等	6.8	9.2	7.7	10.9	8.7	10.8	7.3	15.0	7.1	9.5	8.0	11.0
都道府県推薦病院	9.4	11.7	3.0	27.7	-	-	-	-	8.6	10.6	2.7	25.4
年齢												
15-39歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40歳代	19.9	20.6	8.1	37.1	-	-	-	-	19.4	20.0	8.7	34.9
50歳代	9.6	10.5	6.9	15.0	20.5	21.3	10.5	34.6	11.3	12.2	8.6	16.5
60歳代	10.3	12.3	9.6	15.4	8.3	9.0	4.2	16.1	10.0	11.8	9.3	14.6
70歳代	4.0	6.3	4.3	9.0	4.0	5.3	2.0	11.2	4.0	6.1	4.3	8.4
80歳以上	1.5	5.5	1.5	14.6	8.4	17.6	5.7	38.1	2.8	8.3	3.7	16.3
UICC TNM 総合ステージ												
I期	28.9	44.1	33.0	55.9	-	-	-	-	28.1	42.0	32.0	52.7
II期	14.5	19.7	10.9	31.1	-	-	-	-	16.3	22.3	13.5	33.1
III期	8.3	10.6	8.2	13.4	10.8	13.1	7.7	20.1	8.7	11.0	8.8	13.6
IV期	1.1	1.5	0.8	2.7	2.7	3.1	1.0	7.3	1.3	1.7	1.0	2.9
不詳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
観血的治療												
有	25.2	36.5	26.8	47.0	36.4	44.6	21.4	68.3	26.7	37.7	28.6	47.3
原発巣・治癒切除	27.5	39.2	28.3	50.9	-	-	-	-	29.3	40.8	30.6	51.4
原発巣・非治癒切除	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無	5.2	6.8	5.5	8.4	6.6	8.2	5.1	12.1	5.4	7.1	5.8	8.5



非小細胞肺癌

	対象数	施設数	死亡数	平均年齢	生存状況把握割合 (%)
2007	20,482	180	14,684	69.0	96.5
I 期	7,934	179	3,538	69.4	96.2
II 期	1,430	168	993	69.3	96.6
III 期	5,211	178	4,510	69.0	96.6
IV 期	5,608	179	5,363	68.0	97.0

(1) 生存状況把握割合

対象者は、20,482 例で、そのうち 10 年以内に死亡していた者は、14,684 例、打ち切りが 712 例で、全体として生存状況把握割合は 96.5%であった。

(2) 対象者の属性

対象者の属性を表 3-5②-1 に示す。対象者は、男性が 68.2%を占め、70 歳代が最も多かった。UICC

TNM分類総合ステージ別にみると、全体として I 期が約 39%、次いで IV 期が約 27%であった。病期分布に若干女性で I 期の割合が男性より多かった。観血的治療実施を受けた者の割合は、小細胞肺癌と比較して多く、44.9%であった。発見経緯をみると、他疾患経過観察中が約 29%であった。

表 3-5②-1 対象者の属性

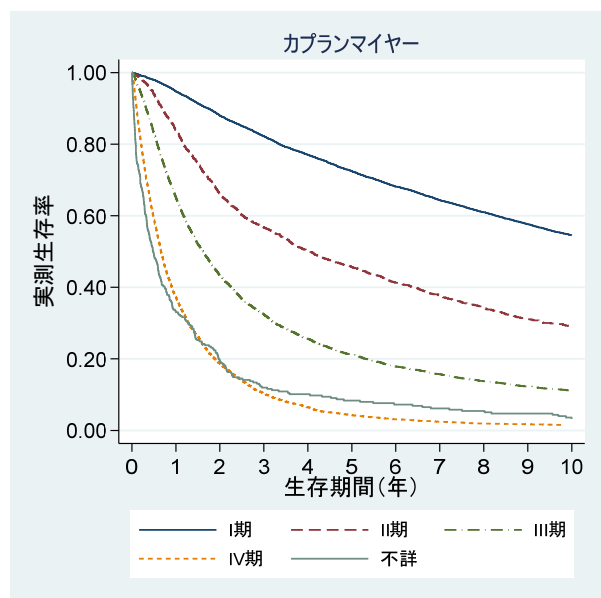
	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	13,969	100.0	6,513	100.0	20,482	100.0
拠点病院等	13,739	98.4	6,415	98.5	20,154	98.4
都道府県推薦病院	230	1.6	98	1.5	328	1.6
年齢						
平均年齢 (SD)	69.4	(SD:10.0)	68.1	(SD:10.9)	69.0	(SD:10.3)
15-39 歳	87	0.6	88	1.4	175	0.9
40 歳代	380	2.7	235	3.6	615	3.0
50 歳代	1,915	13.7	1,098	16.9	3,013	14.7
60 歳代	4,057	29.0	1,906	29.3	5,963	29.1
70 歳代	5,415	38.8	2,274	34.9	7,689	37.5
80 歳以上	2,115	15.1	912	14.0	3,027	14.8
UICC TNM 分類総合ステージ						
I 期	4,797	34.3	3,137	48.2	7,934	38.7
II 期	1,096	7.8	334	5.1	1,430	7.0
III 期	3,990	28.6	1,221	18.7	5,211	25.4
IV 期	3,868	27.7	1,740	26.7	5,608	27.4
不詳	218	1.6	81	1.2	299	1.5
観血的治療						
有	5,660	40.5	3,529	54.2	9,189	44.9
原発巣・治癒切除	4,996	35.8	3,219	49.4	8,215	40.1
原発巣・非治癒切除	299	2.1	128	2.0	427	2.1
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	365	2.6	182	2.8	547	2.7
無	8,309	59.5	2,984	45.8	11,293	55.1
発見経緯						
がん検診	989	7.1	662	10.2	1,651	8.1
健康診断・人間ドック	1,985	14.2	1,177	18.1	3,162	15.4
他疾患経過観察中	4,136	29.6	1,875	28.8	6,011	29.3
その他・不明	6,859	49.1	2,799	43.0	9,658	47.2

(3)10年生存率

10年生存率を表3-5②-2に示す。全体での10年相対生存率は、男性が29.0%、女性が48.4%と女性でやや高かった。UICC TNM 分類総合ステージ別にみても、やや男性より女性で相対生存率が高い傾向にあった。観血的治療を受けた者(原発巣・治癒切除)では相対生存率は男女とも60%を超えていた。

表 3-5②-2 属性別 10年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	20.3	29.0	28.0	30.0	40.5	48.4	46.9	49.8	26.8	35.4	34.6	36.2
拠点病院等	20.4	29.1	28.1	30.1	40.7	48.6	47.2	50.1	26.9	35.6	34.7	36.4
都道府県推薦病院	16.4	23.3	16.9	30.7	26.8	31.6	21.4	42.7	19.5	25.8	20.3	31.9
年齢												
15-39歳	32.7	33.2	23.3	43.4	40.9	41.2	30.6	51.6	36.8	37.2	29.9	44.5
40歳代	32.0	33.0	28.1	38.0	45.3	46.1	39.5	52.5	37.1	38.1	34.1	42.0
50歳代	34.2	37.2	34.9	39.5	50.5	52.3	49.2	55.4	40.2	42.7	40.9	44.6
60歳代	27.1	32.6	31.0	34.3	48.9	52.8	50.4	55.2	34.1	39.2	37.8	40.6
70歳代	14.9	25.1	23.5	26.8	38.0	48.8	46.2	51.4	21.8	32.6	31.2	34.0
80歳以上	5.5	19.4	16.1	23.2	15.0	32.4	27.4	37.8	8.4	23.8	21.0	26.8
UICC TNM 総合ステージ												
I期	43.9	64.0	61.9	66.1	70.9	85.1	83.1	87.0	54.6	72.8	71.3	74.3
II期	24.7	34.3	30.8	38.0	43.7	50.4	44.0	56.5	29.1	38.2	35.1	41.4
III期	9.6	12.8	11.6	14.1	15.9	18.7	16.3	21.2	11.1	14.2	13.1	15.4
IV期	1.1	1.5	1.1	2.0	2.4	2.8	2.0	3.8	1.5	1.9	1.5	2.3
不詳	2.6	4.7	1.8	10.1	5.4	7.3	2.4	16.4	3.3	5.3	2.7	9.6
観血的治療												
有	43.4	60.5	58.7	62.3	67.7	79.5	77.7	81.3	52.8	68.1	66.8	69.5
原発巣・治癒切除	45.6	63.5	61.5	65.4	70.1	82.4	80.4	84.2	55.2	71.2	69.8	72.6
原発巣・非治癒切除	13.4	19.0	13.8	25.0	23.0	27.1	18.9	36.2	16.3	21.5	17.0	26.4
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	38.3	53.5	46.4	60.5	57.4	66.4	57.7	74.3	44.7	57.9	52.4	63.3
無	4.2	6.5	5.8	7.2	7.6	9.8	8.6	11.1	5.1	7.3	6.8	8.0



6. 女性乳癌

	対象数	施設数	死亡数	平均年齢	生存状況把握割合 (%)
2007	16,876	181	3,318	58.0	96.3
I 期	6,865	180	686	58.5	96.2
II 期	7,050	180	1,176	57.5	96.3
III 期	2,063	177	765	57.9	96.2
IV 期	809	166	652	58.2	97.4

(1) 生存状況把握割合

集計対象は、16,876 例で、10 年以内に亡くなっていたのが 3,318 例、打ち切りが 629 例であった。集計対象全体での生存状況把握割合は 96.3%であった。

(2) 対象者の属性

対象者の属性を表 3-6-1 に示す。診断時の年齢をみると、50 歳代が最も多く、次いで 60、40 歳代であった。また、35 歳未満は、422 例であった (2.5%)。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、I 期が最も多く約 41%、次いで II 期が約 42%であった。観血的治療の実施割合は、約 91%であった。発見経緯を見ると、大腸や肺と比較してがん検診がやや多かった。

表 3-6-1 対象者の属性

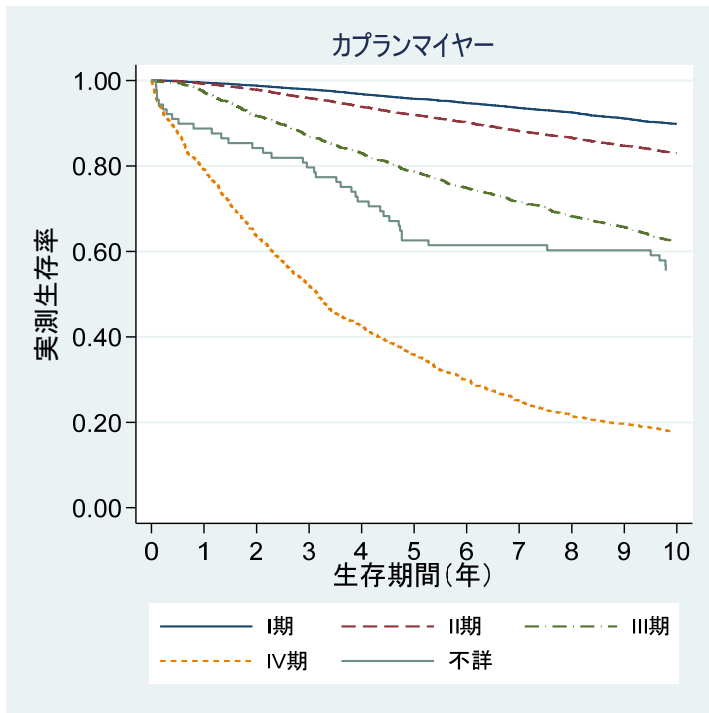
	対象数	(%)
全体	16,876	100.0
拠点病院等	16,548	98.1
都道府県推薦病院	328	1.9
年齢		
平均年齢 (SD)	58.0	(SD:13.0)
15-39 歳	1,202	7.1
40 歳代	3,674	21.8
50 歳代	4,610	27.3
60 歳代	3,943	23.4
70 歳代	2,482	14.7
80 歳以上	965	5.7
35 歳未満 (再掲)	422	2.5
UICC TNM 分類総合ステージ		
I 期	6,865	40.7
II 期	7,050	41.8
III 期	2,063	12.2
IV 期	809	4.8
不詳	89	0.5
観血的治療		
有	15,384	91.2
原発巣・治癒切除	14,055	83.3
原発巣・非治癒切除	619	3.7
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	710	4.2
無	1,492	8.8
発見経緯		
がん検診	3,107	18.4
健康診断・人間ドック	841	5.0
他疾患経過観察中	1,340	7.9
その他・不明	11,588	68.7

(3) 10 年生存率

10 年生存率を表 3-6-2 に示す。全体として、相対生存率は 88.4%であり、どの年代においても相対生存率は 80%を超えていた。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、I 期、II 期では相対生存率は 90%以上であるが、IV 期では約 19%にとどまった。なお、観血的治療を受けた者 (原発巣・治癒切除) では、相対生存率は 92.3%を超えていた。

表 3-6-2 属性別 10 年相対生存率

	女性			
	実測	相対	95%信頼区間	
全体	80.0	88.4	87.8	89.1
拠点病院等	80.1	88.5	87.8	89.1
都道府県推薦病院	77.2	87.2	81.6	92.0
年齢				
15-39 歳	85.3	85.9	83.8	87.9
40 歳代	88.8	90.2	89.1	91.2
50 歳代	84.5	87.4	86.3	88.5
60 歳代	81.2	87.5	86.1	88.7
70 歳代	70.7	89.8	87.4	92.1
80 歳以上	36.6	89.2	81.6	96.8
35 歳未満 (再掲)	84.4	84.8	80.9	88.0
UICC TNM 総合ステージ				
I 期	89.8	99.6	98.8	100.4
II 期	83.0	91.4	90.4	92.3
III 期	62.2	68.8	66.4	71.1
IV 期	17.9	19.3	16.5	22.3
不詳	55.5	69.9	56.0	82.1
観血的治療				
有	83.7	92.3	91.6	92.9
原発巣・治癒切除	84.6	93.3	92.6	93.9
原発巣・非治癒切除	70.7	78.9	74.6	82.7
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	76.1	84.7	81.0	88.0
無	41.9	47.6	44.6	50.4



付表一覽

1.集計対象施設一覽

付表1 集計対象施設について

都道府県	施設名称
北海道	JA北海道厚生連旭川厚生病院
北海道	王子総合病院
北海道	JA北海道厚生連帯広厚生病院
北海道	北見赤十字病院
北海道	社会医療法人母恋 日鋼記念病院
岩手	岩手県立中央病院
岩手	岩手県立二戸病院
岩手	岩手県立中部病院
宮城	東北大学病院
宮城	宮城県立がんセンター
宮城	石巻赤十字病院
宮城	大崎市民病院
宮城	独立行政法人労働者健康安全機構 東北労災病院
秋田	秋田大学医学部附属病院
秋田	秋田県厚生農業協同組合連合会 大曲厚生医療センター
秋田	秋田赤十字病院
山形	山形県立中央病院
山形	山形大学医学部附属病院
山形	山形市立病院済生館
山形	置賜広域病院企業団 公立置賜総合病院
福島	一般財団法人太田総合病院附属太田西ノ内病院
福島	一般財団法人竹田健康財団 竹田総合病院
福島	総合南東北病院
茨城	茨城県立中央病院
茨城	茨城県厚生農業協同組合連合会 総合病院土浦協同病院・茨城県地域がんセンター
栃木	地方独立行政法人栃木県立がんセンター
栃木	自治医科大学附属病院
栃木	栃木県済生会宇都宮病院
栃木	獨協医科大学病院
栃木	那須赤十字病院
群馬	群馬県立がんセンター
群馬	独立行政法人国立病院機構渋川医療センター
群馬	独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター
埼玉	さいたま赤十字病院
埼玉	埼玉県立がんセンター
埼玉	深谷赤十字病院
埼玉	春日部市立医療センター
千葉	国立研究開発法人 国立がん研究センター東病院
千葉	国保旭中央病院
千葉	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院
千葉	国保直営総合病院君津中央病院
千葉	千葉県がんセンター
千葉	独立行政法人労働者健康安全機構 千葉労災病院
千葉	船橋市立医療センター
千葉	順天堂大学医学部附属浦安病院
千葉	東京慈恵会医科大学附属柏病院
千葉	日本医科大学千葉北総病院
東京	国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院
東京	東京都立駒込病院
東京	がん研有明病院
東京	聖路加国際病院
神奈川	神奈川県立がんセンター
神奈川	国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院
神奈川	横浜市立市民病院
神奈川	公立大学法人 横浜市立大学附属病院
神奈川	聖マリアンナ医科大学病院

都道府県	施設名称
新潟	新潟県立がんセンター新潟病院
新潟	長岡赤十字病院
富山	富山県立中央病院
富山	黒部市民病院
富山	富山大学附属病院
富山	厚生連高岡病院
石川	国立大学法人金沢大学附属病院
石川	独立行政法人国立病院機構 金沢医療センター
石川	金沢医科大学病院
石川	小松市民病院
福井	福井県立病院
福井	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 福井県済生会病院
福井	福井赤十字病院
福井	福井大学医学部附属病院
山梨	山梨県立中央病院
山梨	国立大学法人 山梨大学医学部附属病院
長野	国立大学法人 信州大学医学部附属病院
長野	社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院
岐阜	高山赤十字病院
岐阜	岐阜県総合医療センター
岐阜	岐阜県立多治見病院
岐阜	大垣市民病院
岐阜	社会医療法人厚生会 木沢記念病院
静岡	静岡県立静岡がんセンター
静岡	静岡県立総合病院
静岡	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷三方原病院
静岡	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷浜松病院
静岡	順天堂大学医学部附属静岡病院
静岡	静岡市立静岡病院
静岡	藤枝市立総合病院
静岡	浜松医科大学医学部附属病院
静岡	浜松医療センター
愛知	愛知県がんセンター
愛知	愛知県厚生農業協同連合会安城更生病院
愛知	豊橋市民病院
愛知	一宮市立市民病院
愛知	公立陶生病院
愛知	愛知県厚生農業協同組合連合会 豊田厚生病院
愛知	名古屋第一赤十字病院
滋賀	市立長浜病院
京都	京都市立病院
京都	京都第一赤十字病院
京都	市立福知山市民病院
大阪	大阪府立病院機構 大阪急性期・総合医療センター
大阪	市立岸和田市民病院
大阪	地方独立行政法人市立東大阪医療センター
大阪	市立豊中病院
大阪	大阪国際がんセンター
大阪	地方独立行政法人大阪市民病院機構大阪市立総合医療センター
大阪	大阪赤十字病院
大阪	独立行政法人国立病院機構 大阪南医療センター
大阪	独立行政法人労働者健康安全機構大阪労災病院
大阪	国立病院機構大阪医療センター
兵庫	兵庫県立がんセンター
兵庫	神戸市立医療センター中央市民病院
兵庫	姫路赤十字病院

都道府県	施設名称
兵庫	赤穂市民病院
兵庫	公立豊岡病院組合立豊岡病院
兵庫	兵庫県立柏原病院
奈良	奈良県立医科大学附属病院
和歌山	日本赤十字社和歌山医療センター
鳥取	鳥取県立厚生病院
鳥取	独立行政法人国立病院機構 米子医療センター
鳥取	鳥取県立中央病院
島根	松江市立病院
島根	松江赤十字病院
島根	島根大学医学部附属病院
島根	独立行政法人国立病院機構 浜田医療センター
岡山	公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院
岡山	津山中央病院
広島	県立広島病院
広島	広島赤十字・原爆病院
広島	独立行政法人国立病院機構 呉医療センター
広島	東広島医療センター
広島	福山市民病院
山口	国立病院機構 岩国医療センター
山口	山口県厚生農業協同組合連合会周東総合病院
徳島	徳島県立中央病院
香川	独立行政法人労働者健康安全機構香川労災病院
香川	三豊総合病院
香川	高松赤十字病院
香川	国立大学法人 香川大学医学部附属病院
愛媛	市立宇和島病院
愛媛	独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター
愛媛	住友別子病院
愛媛	愛媛大学医学部附属病院
愛媛	松山赤十字病院
愛媛	社会福祉法人恩賜財団 済生会今治病院
高知	国立大学法人 高知大学医学部附属病院
高知	高知県・高知市病院企業団立 高知医療センター
福岡	久留米大学病院
福岡	公立八女総合病院
福岡	社会保険田川病院
福岡	飯塚病院
福岡	独立行政法人国立病院機構福岡東医療センター
福岡	北九州市立医療センター
福岡	独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター
福岡	国立大学法人 九州大学病院
福岡	福岡県済生会福岡総合病院
福岡	聖マリア病院
福岡	独立行政法人地域医療機能推進機構 九州病院
福岡	産業医科大学病院
佐賀	地方独立行政法人 佐賀県医療センター好生館
佐賀	国立大学法人 佐賀大学医学部附属病院
佐賀	唐津赤十字病院
佐賀	独立行政法人国立病院機構 嬉野医療センター
長崎	日本赤十字社長崎原爆病院
長崎	地方独立行政法人 佐世保市総合医療センター
長崎	長崎大学病院
熊本	熊本大学病院
熊本	独立行政法人労働者健康安全機構 熊本労災病院
熊本	人吉医療センター

都道府県	施設名称
熊本	熊本赤十字病院
大分	大分県立病院
大分	大分赤十字病院
鹿児島	国立病院機構 鹿児島医療センター
沖縄	地方独立行政法人那覇市立病院
沖縄	沖縄県立中部病院
沖縄	国立大学法人 琉球大学医学部附属病院

都道府県	施設名称
青森	八戸市立市民病院
秋田	中通総合病院
茨城	茨城西南医療センター病院
静岡	沼津市立病院
静岡	焼津市立総合病院
熊本	天草地域医療センター

がん診療連携拠点病院等院内がん登録
2007年10年生存率集計 報告書

2021年4月 第1刷発行
(非売品)

編 集 東尚弘 奥山絢子

発 行 国立研究開発法人 国立がん研究センター
がん対策情報センター がん登録センター
院内がん登録分析室
〒104-0045 東京都中央区築地五丁目1番1号
電話 03-3542-2511